

山北町第6次総合計画 基本計画（素案）

第1章	健康福祉分野	1
第1節	健康	2
第1項	健康づくり	2
1	健康づくり活動の充実	2
2	健康教育、相談等の充実	3
3	食育の推進	3
第2項	保健サービス	4
1	健康で安心して生活できる環境構築の推進	4
2	保健・医療体制、健康づくり環境の整備	5
3	母子保健事業の充実	5
第2節	地域医療	6
第1項	医療体制	6
1	医療体制の充実	7
2	救急、災害時医療体制等の充実	7
第2項	社会保障	8
1	国民健康保険の充実	9
2	後期高齢者医療の運営	9
第3節	地域福祉	10
第1項	地域福祉	10
1	地域福祉活動の推進	11
2	ボランティア活動の促進	11
3	災害時要配慮者の安全・安心の推進	11
第4節	社会福祉	12
第1項	低所得者福祉	12
1	低所得世帯の生活の安定のための関係機関との連携	12
第5節	児童福祉	13
第1項	子育て支援・児童福祉	13
1	地域における子育て支援	14
2	子育て支援の総合的推進	14
3	遊び場の整備	15
4	ひとり親家庭への支援	15
5	児童虐待の防止	15
第6節	高齢者福祉	16
第1項	高齢者福祉	16
1	生きがいと健康づくりの推進	16
2	在宅福祉サービスの充実	17
3	高齢者の暮らしやすい生活環境・移動手手段の整備	17
4	高齢者虐待の防止	17
第2項	介護保険	18
1	介護保険事業の推進	18
2	介護保険サービスの充実と質の向上	18
3	介護予防の推進	19
4	地域包括ケアシステムの深化	19
5	認知症施策の推進	19
第7節	障がい者福祉	20
第1項	障がい者福祉	20
1	障がいの早期発見、早期対応	21
2	生活支援体制の充実	21
3	自立活動の支援	22

第2章	教育文化分野	23
第1節	教育・青少年	24
第1項	乳幼児教育・保育	24
1	多様なニーズに対応した教育・保育環境及び内容の充実	24
2	家庭教育・保育の充実	25
第2項	小学校・中学校教育	26
1	教育内容の充実	27
2	社会の変化に対応した教育の充実	28
3	支援教育の充実	28
4	学校施設等の整備	29
第3項	地域教育力	30
1	交流の促進	30
2	就学の機会の充実	31
3	子どもの居場所づくりの推進	31
第4項	青少年の健全育成	32
1	交流の促進	33
2	活動の支援	33
第2節	生涯学習・生涯スポーツ・文化活動	34
第1項	生涯学習	34
1	生涯学習の総合的な推進	35
2	生涯学習センターの充実	35
第2項	生涯スポーツ	36
1	スポーツ活動の推進	37
2	スポーツの場の整備と活用	37
第3項	文化活動	38
1	文化活動の推進	39
2	文化財の保存と活用	39
第3節	人権	40
第1項	男女共同参画社会	40
1	男女共同参画社会の推進	40
第2項	人権	41
1	人権を守るまちづくりの推進	42
第3章	生活環境分野	43
第1節	防災・安全対策	44
第1項	防災対策	44
1	防災施策の推進	45
2	減災対策の推進	45
3	防災意識の啓発	46
4	自主防災組織等の育成、強化	46
第2項	消防・救急	46
1	消防力の強化	48
2	火災の未然防止	48
第3項	地域安全対策	49
1	交通安全意識の向上	50
2	交通安全施設の整備	50
3	安全な道路環境づくり	50
4	地域防犯活動の充実	50
5	防犯灯等の整備	51
6	消費生活の向上	51
第2節	環境	52
第1項	自然環境	52
1	環境にやさしいまちづくりの推進	53
2	地球温暖化防止対策の推進	53
3	再生可能エネルギー導入の推進	53
4	環境教育の推進	54

5	水源の森林づくりの推進	54
6	河川整備の推進	54
7	小川、河川、湖の環境整備	54
第2項	廃棄物処理	55
1	分別収集の推進	56
2	ごみ処理広域化の推進	56
第3項	環境衛生	57
1	不法投棄の防止	57
2	有害虫の駆除	58
3	ペットの飼主マナー向上対策の充実	58
4	環境問題に対する指導、啓発	58
第3節	住環境	59
第1項	住宅環境	59
1	住宅地の整備	59
2	町営住宅の整備	60
3	特定空き家等対策の推進	60
4	住区基幹公園の整備	60
5	県立山北つぶらの公園の整備促進	60
第2項	上水道	61
1	水質の確保	61
2	水量の確保	61
3	水道施設の整備	61
4	管理体制の強化	62
5	町民サービスの向上	62
第3項	生活排水	63
1	公共下水道の整備	64
2	合併処理浄化槽の整備	64
3	し尿処理の適正化	64
第4項	移住・定住	65
1	定住対策の総合的な推進	66
2	やまきた定住相談センター事業の推進	66
3	空き家バンク事業の推進	66
第4節	コミュニティ	67
第1項	コミュニティ活動	67
1	コミュニティ活動の推進	68
2	町民やコミュニティと連携したまちづくりの推進	68
第4章	産業振興分野	69
第1節	農林水産業	70
第1項	農業	70
1	持続可能な農業経営の確立	71
2	農地の保全と農業基盤の維持・整備	71
3	特色ある農業の振興	72
4	営農環境の向上	72
第2項	林業	73
1	水源の森林づくり事業の推進	73
2	林業基盤の整備と林業の活性化	74
3	多様な森林利用の推進	74
第3項	水産業	75
1	増殖事業の強化・養殖事業の振興	75
第2節	商工業	76
第1項	商業	76
1	山北駅・東山北駅周辺整備の推進	77
2	商業経営の充実	77
第2項	鉱工業	78
1	工業の活性化	79
2	砂利採取事業の促進	79

3	山砂利採取跡地の有効活用	79
第3節	観光業	80
第1項	観光	80
1	観光マスタープランの推進	81
2	三保ダム・丹沢湖周辺の整備	81
3	歴史と自然にふれあう公園整備	81
4	つぶらの・大野山周辺地域の整備	82
5	観光ルートの整備	82
6	ハイキングコース、登山道の整備	82
7	観光情報の発信強化	83
8	観光協会等の支援	83
第4節	労働	84
第1項	労働環境	84
1	働きやすい環境の推進	84
第5章	都市基盤分野	85
第1節	都市基盤	86
第1項	土地利用	86
1	総合的、計画的な土地利用の推進	87
2	スマートインターチェンジ整備を契機とした土地利用の推進	87
3	未利用施設等の利活用の推進	87
第2項	都市基盤	88
1	都市計画の推進	88
第2節	交通基盤	89
第1項	公共交通機関	89
1	地域公共交通の維持	90
2	山北町地域公共交通計画の推進	90
3	駅周辺の整備及び情報発信	90
第2項	道路整備	91
1	高速道路の整備促進・スマートインターチェンジの整備	91
2	県道の整備促進	92
3	広域幹線道路ネットワーク形成に向けた取り組み	92
4	町道の整備	92
5	安全、快適な道路環境の整備	92
第6章	行財政分野	93
第1節	行政経営	94
第1項	行政運営と財政運営	94
1	計画行政の推進	95
2	行政改革の推進	95
3	職員能力の向上	95
4	健全な財政運営の推進	96
5	公共施設の適正化	96
第2項	デジタル化	97
1	自治体DXの推進	98
2	マイナンバーカードの普及促進	98
第3項	広報広聴活動	99
1	広報活動の充実	99
2	広聴活動の充実	99
第2節	交流・広域行政	101
第1項	地域間交流	101
1	地域間交流の推進	102
2	自治体間交流の推進	102
第2項	広域行政	103
1	広域行政の推進	103

第1章 健康福祉分野

扉

※必ず奇数ページ（右側）

第1節 健康

第1項 健康づくり

基本方針

町民一人ひとりが食や健康に関する意識を高め、自ら積極的に健康づくりを推進できるよう、健康教育や相談体制の整備を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 様々な健康づくりを目的とした自主活動の支援をしています。活動する町民の高齢化が進む中、町民に合わせた支援が必要です。
- ❖ 介護や看護を受けずに自立して生活できる「健康寿命」を延ばすためには、フレイル対策が重要な課題です。
- ❖ 町民一人ひとりが生涯を通じ、自らの健康を保ち心豊かに生活できるよう主体的な健康づくりを支援し、まち全体で住民の健康を支える環境づくりを推進する必要があります。
- ❖ 健康福祉センターを拠点として、生活習慣病予防の各種健診の実施及び保健指導・相談支援の充実や保健・医療の連携強化、保健師等専門職の確保・育成と質的向上、サービスの効果的・効率的運用を図る必要があります。

施策と事業

1 健康づくり活動の充実

- ✓ すべての町民が、いつまでも健康でいきいきと暮らし、健康寿命を延ばせるよう、第2次（3次）健康増進計画の目標達成に向けて取り組みます。
- ✓ 健康寿命延伸のため、フレイル予防を中心とした各種健康づくり事業を進めます。
- ✓ 自発的な健康づくりを進めるため、健康づくりを目的とした団体の育成及び活動を支援します。
- ✓ 健康づくりの拠点となる健康福祉センターの利用者に向けたサービスの向上を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	第2次・3次健康増進計画に基づく各種事業の実施	○	○	○	○	○
2	第3次健康増進計画の策定			○		
3	やまきたスポーツの秋祭りや健康づくり事業の実施	○	○	○	○	○
4	健康づくり団体の活動及び育成支援	○	○	○	○	○
5	健康福祉センター利用者へのサービスの向上（照明LED化を含む）	○	○	○	○	○

2 健康教育、相談等の充実

- ✓ 町民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけ、健康寿命を延ばせるよう、運動や健康に関する教室を実施します。
- ✓ 未病センター（健康福祉センター内）の「健康ステーション」を活用し、町民の健康意識のきっかけづくり、向上を図ります。
- ✓ 気軽に相談できる健康相談体制の充実を図ります。
- ✓ 各相談窓口や地域包括支援センター等の保健・医療・福祉・介護の各関係機関が連携し、複合的な相談に対しても相談支援がスムーズに行える窓口体制を強化します。
- ✓ 保健指導・相談支援の充実を目指し、保健・医療の連携強化、専門職（保健師・管理栄養士）の確保・充実を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	健康講座、健康教室の実施	○	○	○	○	○
2	未病センターの活用	○	○	○	○	○
3	健康相談の充実	○	○	○	○	○
4	保健師や管理栄養士の確保	○	○	○	○	○

3 食育の推進

- ✓ 町民一人ひとりが食に関心を持ち、健康で活力あふれる人生を送ることができるよう、第2次（3次）食育推進計画に基づく事業を進めます。
- ✓ 生涯を通じた健康づくりの実現のため、家庭を基本としつつ、幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校、地域、関係団体と連携した食育事業を実施します。
- ✓ 食育に関する講座、教室を開催します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	第2次・3次食育推進計画の推進	○	○	○	○	○
2	食を通じた健康づくりを実施する団体への支援	○	○	○	○	○
3	食に関する講座・教室の開催	○	○	○	○	○
4	第3次食育推進計画の策定			○		

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
健康福祉センターの有効利用率（稼働率）	33%	50%
さくらの湯の年間利用者数	66,800人	90,000人

第2項 保健サービス

基本方針

健康で安心して生活できる環境を構築するため、母子保健事業の推進及び疾病の予防、早期発見・早期治療に努めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 年齢に応じた健康診査や各種がん検診の推進及び健康教室や健康相談などの疾病予防事業の充実が求められています。
- ❖ 社会環境や生活環境の変化により増大した健康リスクを低減するため、地域に根差した適切な健康づくりが求められています。
- ❖ 地域社会との交流によって、より充実した健康づくりに取り組める環境整備を進めていく必要があります。
- ❖ 医療制度や健康づくりに関する情報の積極的な周知が必要です。
- ❖ 母子の不安や悩みを解消するため、各種母子保健事業による支援が必要です。

施策と事業

1 健康で安心して生活できる環境構築の推進

- ✓ 医療機関を受診しやすい環境づくりを進めるとともに、健康診査や各種がん検診の受診率の向上を目指します。
- ✓ 日常生活における適切な健康づくりを推進するため、健康相談に対する指導の充実を図ります。
- ✓ 国民健康保険データベース（KDB）システムを活用した山北町国民健康保険データヘルス計画に基づき、効果的な保健活動を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	健康診査や各種がん検診の充実及び受診勧奨	○	○	○	○	○
2	健康相談に対する適切な指導の実施	○	○	○	○	○
3	山北町国民健康保険データヘルス計画の推進	○	○	○	○	○

2 保健・医療体制、健康づくり環境の整備

- ✓ 健康普及員や健康づくりに関する団体・ボランティアなどと連携した地域ぐるみの健康づくりの充実を図ります。
- ✓ 住み慣れた地域や自宅で暮らし続けることができるよう在宅医療・介護連携支援センターの充実を図ります。
- ✓ 医療制度や健康づくりに関する情報を町のホームページ等各種媒体を活用し発信します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	地域に根差した健康づくり体制の構築	○	○	○	○	○
2	在宅医療・介護連携支援センターの1市5町共同運営・充実	○	○	○	○	○
3	町のホームページや各種媒体を活用した情報の発信	○	○	○	○	○

3 母子保健事業の充実

- ✓ 母子の心身の健康のため、訪問指導、健診、健康相談・教育の充実を図ります。
- ✓ 妊娠、出産、育児に対し母子保健事業の充実を図り、**不安や悩みを解消するため、切れ目のない支援に取り組みます。**
- ✓ 予防接種を勧奨し、子どもの健康を守ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	母子に対する相談・訪問指導（新生児訪問を含む）の推進	○	○	○	○	○
2	妊婦に対する保健指導の充実	○	○	○	○	○
3	妊婦検診費用の補助・妊婦タクシー助成、出産・子育て応援交付金の支給	○	○	○	○	○
4	乳幼児健康診査・予防接種の勧奨・助成	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
がん検診の受診率	8.2%	20%

第2節 地域医療

第1項 医療体制

基本方針

安心して適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医の普及及び高次医療機関との連携などを図りながら、地域医療体制の強化を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 健康への関心が高まる中、町立診療所は、町民の健康増進と福祉向上のために住民のニーズを的確に把握し、信頼される「かかりつけ医」として、より良質な医療の提供が図られるよう努める必要があります。
- ❖ 町内には一般診療所が4施設、歯科診療所が3施設あり、一次診療を中心として治療を行っています。一次救急医療は、1市5町で運営する足柄上休日急患診療所を開設しており、休日・夜間の二次救急医療は、県立足柄上病院を中心に広域輪番制で対応し、小田原市消防本部による搬送体制が確保されています。今後は一次医療体制及び機能の継続的な整備とともに、専門性の高い二次・三次救急医療体制との安定的な連携を確保する必要があります。
- ❖ AEDは、主な公共施設へ設置済みです。今後は機器の更新、救急救命講習等の開催による利用方法の周知を図ると同時に休日・夜間も利用できる体制を整える必要があります。

施策と事業

1 医療体制の充実

- ✓ 町立山北診療所の運営及び医療機器の計画的な更新および導入を推進します。
- ✓ 足柄上地区における診療科目の充実を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	町立山北診療所の運営及び医療機器の更新	○	○	○	○	○
2	足柄上地区における診療科目の充実	○	○	○	○	○

2 救急、災害時医療体制等の充実

- ✓ 一次医療体制の継続とともに、二次・三次救急医療体制との安定的な連携を確保します。
- ✓ AEDの定期的な更新を行うとともに、救急救命講習会を開催し、AEDの運用指導を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	一次医療体制の継続	○	○	○	○	○
2	近隣市町と連携した休日や夜間における救急医療体制の確保及び充実（足柄上休日急患診療所・小田原市休日夜間診療所）	○	○	○	○	○
3	消防署その他の機関との連携強化	○	○	○	○	○
4	救急救命講習会の開催（AEDの更新・運用指導を含む）	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
救急救命講習会の開催	0回	2回
休日・夜間に利用できるAEDの設置	1箇所	4箇所

第2項 社会保障

基本方針

すべての町民が健康で安心して医療を受けられるよう、国民健康保険や後期高齢者医療制度などの社会保障制度の適正な運営を進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 国民健康保険被保険者のうち、65～74歳までの方が約6割を占める中、医療費の増加が見込まれ、適切な国民健康保険税の改定を行う必要があります。
- ❖ また、国民健康保険税の改定と並行して公平性の観点から納期限内の納付を求め、収納率の向上を図り安定的な財政運営を行う必要があります。
- ❖ 後期高齢者医療制度は、神奈川県後期高齢者医療広域連合と連携し、高齢者にわかりやすい情報を提供していく必要があります。

施策と事業

1 国民健康保険の充実

- ✓ 生活習慣病の早期発見・予防を目的に特定健康診査や人間ドック受診率の向上を目指します。
- ✓ 健康づくり事業を推奨し、医療費の抑制につなげます。
- ✓ 先発薬と同様の効能があるジェネリック医薬品（後発医薬品）の普及に努めます。
- ✓ 国民健康保険財政の安定化と確実な財源確保を目指し、現年度課税の収納率の向上を目指します。
- ✓ 県内国民健康保険税の統一化への備え、及び国民健康保険の安定的な運営のため、国民健康保険税の改定を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	特定健診・人間ドック受診率の向上	○	○	○	○	○
2	糖尿病性腎症重症化予防事業の実施	○	○	○	○	○
3	ジェネリック医薬品の普及・啓発	○	○	○	○	○
4	国民健康保険税（現年度課税分）収納率の向上	○	○	○	○	○
5	国民健康保険税の改定	○	○	○		

2 後期高齢者医療の運営

- ✓ 神奈川県後期高齢者医療広域連合との連携・相互協力により、安定的かつ健全な運営及びわかりやすい情報提供に努めます。
- ✓ 健全な事業運営に必要な財源を確保するため、保険料収納率の向上を目指します。
- ✓ 健康の保持増進のため、高齢者保健事業と介護予防の一体的実施を推進します。
- ✓ 高齢者健康診査の受診率の向上を目指します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	後期高齢者医療制度の普及・啓発（制度、保険料徴収、適正給付）	○	○	○	○	○
2	高齢者保健事業と介護予防の一体的実施	○	○	○	○	○
3	高齢者健康診査受診率の向上	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
特定健康診査受診率（人間ドック受診者含む）	31.9%	54%
高齢者健康診査受診率	17.6%	25%

第3節 地域福祉

第1項 地域福祉

基本方針

町民誰もが住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けることができるよう、町民と行政、社会福祉協議会、**地区福祉協議会**、民間事業者、ボランティアなどが連携しながら、支え合いや助け合いを基本とする福祉のまちづくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 核家族化が進む中で、高齢者のみの世帯やひとり暮らしの高齢者、日中独居になる高齢者や障がい者が増えています。社会福祉協議会等と協力して、地域で支え合い・見守る仕組みを整えるとともに、すべての町民が地域社会に関心を持つための活動を進める必要があります。
- ❖ 町民と行政、民間事業者等の相互協力のもと、誰もが安心して安全に住み慣れたところで暮らしていくことができる地域社会づくりを進めていく必要があります。また、広報紙等を活用した福祉意識の啓発や地域における相談体制の充実と支援を進める必要があります。
- ❖ 地域のつながりを基本とする地域福祉の重要性は、今後も益々高まっていますが、地域福祉を支える人材の高齢化など、新たな担い手の確保が課題です。地域での助け合いなどを含めたボランティア活動の普及や自主的なサークル、NPO等の育成・支援を行うとともに、町民の福祉の心や助け合いの精神から生まれたボランティア活動を推進するために、社会福祉協議会と連携・協力して、ボランティア団体の育成を図る必要があります。
- ❖ **多くの高齢者が**、地域福祉や社会貢献活動に興味や参加意欲を持っていますが実際に活動している人は限られているため、参加できていない層の掘り起こしをして、活動に結びつけていく必要があります。
- ❖ 災害時等における要支援者の安否確認や高齢者の交通事故、消費者トラブルの防止など、地域の安全安心に対する取り組みを推進する必要があります。

施策と事業

1 地域福祉活動の推進

- ✓ 地域福祉計画及び社会福祉協議会地域福祉活動計画に基づき、ひとりでも安心して暮らすことのできる見守り活動を行います。計画策定に際しては、社会福祉協議会と連携を図り、国の指針や関連法令を適切に盛り込み地域課題に対応した計画とします。また、計画を推進するための進捗管理として、点検・評価を実施します。
- ✓ 地域での交流と憩いの場として、小地域サロンの開設、運営を支援します。
- ✓ 町民一人ひとりのニーズに対応できるよう適正な情報提供とひとりでも気軽に相談しやすい相談体制の充実を図ります。
- ✓ 良好な福祉サービスを選択できる仕組みづくりに取り組みます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	地域福祉計画の策定・推進	○	○	○	○	○
2	小地域サロン開設・運営の支援	○	○	○	○	○
3	相談窓口・相談体制の充実	○	○	○	○	○

2 ボランティア活動の促進

- ✓ 広報紙やボランティア講座等を活用し、ボランティア活動への町民意識の高揚を図ります。
- ✓ 誰もがボランティアに参画できるような、情報発信と登録体制の充実を図ります。
- ✓ 高齢者が生きがいをもって生活できるよう、自らの介護予防も兼ねたボランティア活動への参加を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	ボランティア活動の促進と人材育成支援	○	○	○	○	○
2	高齢者のボランティア活動への参加促進	○	○	○	○	○

3 災害時要配慮者の安全・安心の推進

- ✓ 高齢者や障がいのある人など避難行動要支援者の支援体制の充実を図り、災害時に安全・安心に避難できる体制を整えます。
- ✓ 身近な地域の中で生活・福祉課題を共有できるように努めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	避難行動要支援者支援制度の充実と活用促進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値(2022年度)	目標値(2028年度)
ボランティアの登録者割合(人口比)	1.5%	2.0%

第4節 社会福祉

第1項 低所得者福祉

基本方針

低所得者世帯の社会的・経済的な自立に向けて、関係機関と連携した相談体制の充実や生活上の助言を図ることにより、家庭の経済実情に応じた支援を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 疾病や障がい、高齢、ひとり親などの様々な理由で、社会的・経済的に不安定な生活を余儀なくされた方の健康で文化的な生活を維持するため、相談指導体制の充実や生活保護制度の利用、生活困窮世帯への食料支援・生活必需品の提供等による支援を行っていきます。
- ❖ 民生委員児童委員や各種相談員、関係機関との連携による相談・指導体制の充実とともに、低所得者世帯の実態を把握しながら、各分野における適切な支援を進める必要があります。

施策と事業

1 低所得世帯の生活の安定のための関係機関との連携

- ✓ 低所得者世帯が抱える課題は複合的かつ様々な分野にまたがるため、県や関係機関等と連携を図り、自立し安定した生活を送ることができるよう支援します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	県福祉事務所等関係機関と連携した低所得世帯への支援	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	想定値（2028年度）
生活困窮世帯への食糧支援の件数	5世帯	10世帯

第5節 児童福祉

第1項 子育て支援・児童福祉

基本方針

安心して子どもを育てることができるよう、地域における子育て支援や保育サービスを充実し、子どもの遊び場・居場所づくりなどを整備するとともに、ひとり親家庭への支援や児童虐待防止のための要保護児童対策地域協議会などを充実させながら、地域の全ての子どもとその家庭及び妊産婦を対象に切れ目のない支援を提供し、地域に密着した子育て環境づくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 子育て支援センターを拠点とした相談体制の整備や、子育て支援ガイドブックの活用、ファミリー・サポートセンター事業の実施などの取り組みを充実して、より地域と一体となった子育て環境づくりに努めていく必要があります。
- ❖ 子育て世代の経済的負担の軽減を図るため、小児医療費の助成制度や紙おむつの支給を継続する必要があります。
- ❖ 子育て支援施策について調査、審議等を行うための「山北町子ども・子育て会議」において、地域の実情に合った事業を展開するために点検、評価、見直しを継続的に行い、山北町の子育て支援施策の充実を図る必要があります。
- ❖ ひとり親家庭などの自立に向けた経済的支援や相談体制の充実に取り組んでいく必要があります。
- ❖ 要保護児童対策地域協議会を中心とした児童虐待の防止の目的とした関係機関によるネットワークの連携・充実を図り、育児が困難な家庭などへの個別支援を進め、児童虐待の未然防止や再発防止を徹底していく必要があります。
- ❖ 生活スタイルの多様化や核家族化などにより、子育てに関する悩みや不安を抱える親が増えてきており、安心して妊娠・出産・子育てができるよう妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援をおこない、充実した相談体制・情報提供体制を確保することが求められています。

施策と事業

1 地域における子育て支援

- ✓ 子育て支援ガイドブックを活用して、子育てに関する正しい知識と意識の浸透を図ります。
- ✓ 子育て支援センターを活用し、育児相談や育児サークル活動を支援します。
- ✓ 子育て支援ネットワークを強化します。
- ✓ 地域の相互援助活動を支援するファミリー・サポートセンター事業を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	子育て支援ガイドブックの活用	○	○	○	○	○
2	子育て支援センターにおける育児サークル活動等への支援	○	○	○	○	○
3	ファミリー・サポートセンター事業の推進	○	○	○	○	○

2 子育て支援の総合的推進

- ✓ 安心して子育てができる環境づくりを目指す「子ども・子育て支援事業計画」に基づく取り組みを進めます。
- ✓ 子育て世代の経済的支援として、小児医療費助成事業を継続的に実施します。
- ✓ 子育て支援センターや保育園・こども園を拠点とした子育て支援機能の充実を図ります。
- ✓ 安心して妊娠・出産に臨めるよう、経済的支援として、妊婦タクシー助成、出産・子育て応援交付金、出産祝い金及び紙おむつ助成券の支給を行います。
- ✓ 保護者が就労している場合に病気の児童を保育するための病児保育事業を、足柄上地区1市5町の広域事業として継続的に実施します。
- ✓ 保護者の養育を支援することが特に必要である場合に、保健師等の訪問指導や家事援助などの支援をします。
- ✓ 妊娠期から子育て期まで包括的に切れ目のない支援・相談体制の整備を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	子ども・子育て支援事業計画の策定・推進	○	○	○	○	○
2	小児医療費助成事業の実施	○	○	○	○	○
3	妊婦タクシー助成、出産・子育て応援交付金、出産祝い金・紙おむつ助成券の支給	○	○	○	○	○
4	病児保育事業の実施	○	○	○	○	○
5	養育支援訪問事業の実施	○	○	○	○	○
6	子育て世代包括支援センター「すこやか」の運営・充実	○	○	○	○	○

3 遊び場の整備

- ✓ 自然を生かした公園などの遊び場の整備を図ります。
- ✓ 子どもの遊び場となる施設の適切な維持管理をします。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	公園等施設の維持管理	○	○	○	○	○

4 ひとり親家庭への支援

- ✓ ひとり親家庭等の自立や子育てに関する相談体制の充実を図ります。
- ✓ 医療費助成や児童扶養手当の支給、社会福祉協議会と連携した生活福祉資金の貸し付けなど、各種制度の積極的な活用による生活安定に向けた支援の充実を図ります。
- ✓ ひとり親家庭の自立に向けて関係機関と連携・協力し、就労支援を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	主任児童委員等による相談体制の充実	○	○	○	○	○
2	児童扶養手当の支給や医療費助成制度の実施等による支援	○	○	○	○	○
3	ひとり親家庭への就業支援	○	○	○	○	○

5 児童虐待の防止

- ✓ 育児が困難な家庭等への個別支援の充実を図ります。
- ✓ 関係機関と緊密に連携し、支援の必要な子どもの早期発見と早期対応、児童虐待の防止に取り組みます。
- ✓ 母子保健と児童福祉の一体的な相談支援体制を図るための子ども家庭センターの体制を整備し、支援を必要とする全ての子どもとその家庭及び妊産婦に対して支援の充実を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	育児困難家庭への支援の充実	○	○	○	○	○
2	児童虐待防止のための早期発見・早期対応	○	○	○	○	○
3	要保護児童対策地域協議会における要保護児童への支援体制の強化	○	○	○	○	○
4	子ども家庭センターによる一体的な相談支援体制の構築	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
子育て支援センターの年間利用件数	5,199人	6,000人

第6節 高齢者福祉

第1項 高齢者福祉

基本方針

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと自分らしく暮らし続けられるよう、生きがいきづくりや健康づくり、高齢者の暮らしやすい生活環境・移動手段の整備を進めていくとともに、生活支援サービスの充実や地域包括ケア体制の確立を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町の65歳以上の高齢者は、令和5年10月1日現在で4,021人と町民の2.3人に1人を占め高齢化率は42.5%となっており、今後も40%を超える高い水準で推移していくと推計されています。
- ❖ 65歳以上の高齢者人口そのものは横ばい傾向であるものの医療・介護のリスクの高まる75歳以上の高齢者人口は緩やかに増加していくことが予想されます。このため、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケア体制の確立を図るために、高齢者福祉施策と介護保険事業を総合的・計画的に推進する必要があります。
- ❖ 老人クラブやシルバー人材センターへの助成や、やまぶき学級や世代間交流などを通じた高齢者の生きがいきづくりと健康づくりを継続的に実施していく必要があります。
- ❖ 高齢者等の外出支援として、移送サービス事業「おでかけ号」の運行や主に山間部に居住する高齢者を対象とした高齢者福祉タクシー事業を実施しています。通院や買い物など日常的な外出支援のため、事業の拡充に継続的に取り組んでいく必要があります。

施策と事業

1 生きがいと健康づくりの推進

- ✓ 高齢者が安心して暮らせるよう保健・医療・福祉・介護が連携した24時間の連絡・ケア体制を強化します。
- ✓ 高齢者の社会参加、健康づくり、介護予防などの効果が期待される老人クラブやシルバー人材センターなどの活動を支援します。
- ✓ 地域との連携を図り、地域に根ざした高齢者の生きがいきづくりを支援します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	老人クラブへの加入や運営の支援	○	○	○	○	○
2	生きがいきづくりの推進	○	○	○	○	○
3	緊急通報システムの運用や地域包括支援センターによる24時間体制の電話相談	○	○	○	○	○

2 在宅福祉サービスの充実

- ✓ 住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの深化・推進を図り、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を行います。
- ✓ 近隣市町も含めた介護事業所の利用などにより、在宅サービスを確保します。
- ✓ 地域包括ケアシステムの中核的な機関である地域包括支援センターの機能強化を図ります。
- ✓ 多様な生活支援サービスの整備に取り組みます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	在宅サービスの整備	○	○	○	○	○
2	地域包括支援センターの運営・充実	○	○	○	○	○
3	生活支援サービスの充実	○	○	○	○	○

3 高齢者の暮らしやすい生活環境・移動手段の整備

- ✓ 高齢期を迎えても健康で安心して生活ができるように関係機関と連携し、高齢者を地域で見守る支援体制を整備します。
- ✓ 高齢者の移動支援体制の充実を図ります。
- ✓ 神奈川県警察と連携し、認知機能の低下により運転免許証を返納した方に対する支援を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	高齢者の見守り支援体制の充実	○	○	○	○	○
2	関係機関との連携強化	○	○	○	○	○
3	高齢者の移動支援体制の充実	○	○	○	○	○
4	認知症初期集中支援事業の実施 (運転免許証返納者を含む)	○	○	○	○	○

4 高齢者虐待の防止

- ✓ 地域包括支援センターや福祉事業所、民生委員児童委員等の関連機関と連携を強化し、高齢者虐待の早期発見・未然防止を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	高齢者虐待防止ネットワークの推進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値 (2022年度)	目標値(2028年度)
緊急通報システム貸与台数	14台	20台
高齢者等の移動支援登録者数 (高齢者人口比)	2.98%	3.5%

第2項 介護保険

基本方針

介護が必要な状態となっても自立した日常生活を送れるよう、介護サービスやその他の福祉サービスが適切に提供される体制を構築するとともに、要介護状態となることを予防するための事業を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で日常生活を続けられるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」のさらなる深化・推進が必要です。
- ❖ 医療・介護ニーズの高い75歳以上高齢者人口がゆるやかに増加する一方で生産年齢人口は減少していくことから、これまで以上に地域包括ケアシステムを支える人材の不足が見込まれます。
- ❖ 認知症高齢者の増加も見込まれますが、**住み慣れた地域で穏やかに暮らす続けるため、適切な介護サービスの利用と周囲のサポート、理解が必要です。**
- ❖ 介護保険制度はそのサービスの種類が多種多様なため、わかりやすい周知に努める必要があります。

施策と事業

1 介護保険事業の推進

- ✓ 国・県の指針に沿い高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定します。
- ✓ 地域の実情に応じた介護給付費・地域支援事業費の推計に基づき、適正な介護保険料の設定を行います。
- ✓ 定期的に事業評価を実施し、事業の見直しを行います。
- ✓ 介護保険制度の理解を深めるため出前講座を実施します。

	事業名	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定			○		
2	介護給付費基金の適正な管理	○	○	○	○	○
3	事業評価の実施	○	○	○	○	○
4	介護保険制度の出前講座の実施	○	○	○	○	○

2 介護保険サービスの充実と質の向上

- ✓ 介護ニーズを把握し、必要な介護サービスが不足なく提供されるよう地域の実情に応じた在宅サービス基盤の整備を近隣市町と連携して行います。
- ✓ 真に必要とする過不足のない介護サービスが適切に提供されるよう、要介護認定の適正化、ケアプラン等の点検、医療情報との突合・縦覧点検等を実施します。
- ✓ 介護認定調査員を確保し、認定調査技術の向上を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	介護サービスの確保	○	○	○	○	○
2	介護給付費適正化事業	○	○	○	○	○

3 介護予防の推進

- ✓ 介護予防教室の開催など要介護状態となることの予防や悪化の防止のための事業を推進します。
- ✓ フレイル対策などの介護予防と保健事業に一体的に取り組み、重度化予防・重症化予防の促進を目指します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	介護予防教室の開催	○	○	○	○	○

4 地域包括ケアシステムの深化

- ✓ 住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる深化、推進により、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を行います。
- ✓ 地域包括ケアシステムの中核的な機関であり、高齢者に関する総合相談窓口である地域包括支援センターの機能強化を推進します。
- ✓ 多様な生活支援サービスの整備に取り組みます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	地域包括支援センターの運営・充実	○	○	○	○	○
2	生活支援サービスの充実	○	○	○	○	○
3	在宅医療・介護連携支援センターの1市5町共同運営・充実	○	○	○	○	○

5 認知症施策の推進

- ✓ 認知症となっても穏やかに暮らし続けられるよう、初期の段階から集中的に相談・支援を実施します。
- ✓ 認知症への理解を深めることができるようサポーター養成講座等の実施や、認知症高齢者やその家族が安心して相談できる場を定期的で開催します

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の実施	○	○	○	○	○
2	ひだまりカフェの実施	○	○	○	○	○
3	認知症初期集中支援事業の実施 (運転免許証返納者を含む)	○	○	○	○	○

指 標

	実績値 (2023年度)	目標値(2028年度)
在宅サービス提供事業者数	8箇所	8箇所

第7節 障がい者福祉

第1項 障がい者福祉

基本方針

町民誰もが地域で豊かに生活し、地域とのかかわりの中で自立して過ごせることができるよう、自立活動への支援や生活支援体制の充実を図るとともに、障がいのある方にも安心して住みやすいまちづくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 障がいの重度化防止には、保健・医療・福祉を総合的に推進して、障がいの早期発見、早期対応が必要です。また、事故や病気の後遺症などによる障がいのある方の増加とともに、高齢化が進んでおり、個々の障がいに応じた支援が必要となります。
- ❖ 障害者計画等に基づき、身体障がい、知的障がい、精神障がいを統一した福祉サービスと地域生活支援事業を進めるとともに、障がいの早期発見、早期対応などに努めています。また、障がいの状況や年齢に応じた福祉サービス、介護保険サービス、生活支援事業などの充実を図っていく必要があります。
- ❖ 障がいのある人もない人もともに生き生きと生活のできる人に優しいまちづくりを進めるために、ユニバーサルデザインに配慮した誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組む必要があります。
- ❖ 障がい者本人と家族の高齢化が進んでおり、成年後見制度等の活用が必要とされるケースの増加が懸念されます。

施策と事業

1 障がいの早期発見、早期対応

- ✓保健、医療、福祉の関係機関が連携した障がいの早期発見・早期治療体制の充実を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	精神保健福祉相談の実施	○	○	○	○	○
2	療育制度利用の勧奨	○	○	○	○	○

2 生活支援体制の充実

- ✓障がいの状況に応じた適切なサービスの提供と地域での在宅生活が続けられるよう支援します。
- ✓障がいのある人が、身近な地域でいつでも相談でき、適切な支援や制度の利用につなげるための相談体制の充実を図ります。
- ✓障がいのある人の特技や能力を生かした就労ができるよう、支援体制の充実を図ります。
- ✓権利擁護の中核機関「あしがら成年後見センター」の相談体制の充実や利用促進、市民後見人の養成などを推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	障がい者の相談支援体制の充実	○	○	○	○	○
2	権利擁護の推進及び相談の実施	○	○	○	○	○
3	あしがら成年後見センターの相談体制の充実・利用促進	○	○	○	○	○

3 自立活動の支援

- ✓ 障害のある方が地域で自立した生活ができる環境づくりと社会参加を促進します。
- ✓ ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある方に対する正しい理解と認識の普及啓発に努めます。
- ✓ 障害者計画等に基づき障がいの有無にかかわらず誰もが安心して豊かに暮らすことができる地域社会の実現に向けて各事業を推進していきます。計画策定に際しては、国の指針や関連法令を適切に盛り込み、地域課題に対応した計画策定とします。また、計画を推進するための進捗管理として、点検・評価を実施します。
- ✓ 町民誰もが助け合い、その人らしく安心して充実した生活が送れるよう地域社会基盤の整備に努めます。
- ✓ ユニバーサルデザインに配慮した住みやすい住環境の整備を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	障害福祉計画の策定・推進	○	○	○	○	○
2	障がい者およびその家庭へのフォロー体制づくり	○	○	○	○	○
3	障がい者雇用の啓発および働く場の確保	○	○	○	○	○
4	福祉的就労から一般就労への支援	○	○	○	○	○
5	地域作業所の運営支援	○	○	○	○	○
6	住宅などのバリアフリー化の促進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
グループホームの利用者数（月平均）	26人	40人
就労支援機関を通じた就労数	0人 (2018～2022年度)	5人
あしがら成年後見センター利用者数（月平均）	25人	30人

第2章 教育文化分野

扉

※必ず奇数ページ（右側）

第1節 教育・青少年

第1項 乳幼児教育・保育

基本方針

乳幼児の心身ともに健やかな成長に向けて、乳幼児期における教育・保育の大切さを踏まえ、「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」に基づき、地域の特性を生かした創造的な教育・保育や子育て相談などの総合的な支援を推進します。

また、「山北町の乳幼児教育・保育等のあり方基本方針」により、既存幼保施設・設備の維持管理及び長寿命化または更新を図ります。

現状と課題 必要性

- ❖ 少子化を背景とした乳幼児の減少や共働き世帯の増加等による家庭の変容、家庭と地域社会との関係の希薄化など、乳幼児を取り巻く環境が変化してきており、子育て支援などを含めた就学前教育・保育がますます重要になっています。
- ❖ 乳幼児が心身ともに健やかに成長するために、異年齢学級や自然とふれあう園外保育を実施していますが、さらにこうした取り組みを充実させ、生活習慣や人とのコミュニケーション力を身につけることなどにつなげていく必要があります。
- ❖ やまきたこども研究会では、乳幼児教育専門講師の指導助言を受け、研究推進委員会を中心に3園が教育・保育の質の向上をめざし、組織的に取り組んでいます。
- ❖ 園児の送迎の際、周辺道路の交通状況及び施設の老朽化に課題のある向原保育園については、近隣で地区計画が進行中の水上地区への移転を視野に入れながら施設・設備の再整備を進めます。
- ❖ 令和4年度から実施している「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」に示された「5歳までのめざすこども像」及び「園・小の架け橋プログラム」を3園で共有し、その実践と研究推進の継続を図ります。

施策と事業

1 多様なニーズに対応した教育・保育環境及び内容の充実

- ✓ やまきたこども園と向原保育園の円滑な運営を図り、待機児童ゼロを維持します。
- ✓ 0～2歳児の保育に係る経済的負担を軽減するため保育料を減額します。
- ✓ 3～5歳児については国が示す幼児教育・保育無償化を推進します。
- ✓ 在園児以外の一時預かり保育の実施により、保護者の様々なニーズに応じた柔軟な保育サービスを提供します。

- ✓ 乳幼児の使用済紙おむつを園で処分し、子育て世帯の負担軽減を図ります。
- ✓ 3園運営協議会に地域コーディネーターを配置し、地域学校協働本部として家庭・地域との連携をさらに強化し、人や自然との交流など豊かな体験が得られる機会を積極的に進めます。
- ✓ 子どもたちの学びに向かう姿勢の基盤となる非認知能力に着目し、コミュニケーション能力と運動に親しむ資質・能力の育成を推進します。
- ✓ 小学校との連携・交流を深め、生活の連続性や学びの連続性を重視した教育を進めます。そのため、教育専任指導員を配置し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識したアプローチ・スタートカリキュラムを必要に応じて見直しを進めます。
- ✓ 教育認定子どもが減少し、共働き世帯が増加している状況から、「山北町の乳幼児教育・保育等のあり方基本方針」を見直し、教育・保育環境の課題の整理や、施設維持管理の方向性を検討します。
- ✓ 向原保育園の移転については、地域の理解を得ながら最適な立地に整備できるよう調整を図り、認定こども園への移行の可否を検討しつつ再整備を進めます。また、三保幼稚園の跡地活用について、検討していきます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	保育料の軽減	○	○	○	○	○
2	一時預かり保育の実施	○	○	○	○	○
3	園における使用済紙おむつの処分	○	○	○	○	○
4	幼稚園・保育園・こども園のカリキュラムの随時見直し	○	○	○	○	○
5	山北町の乳幼児教育・保育等のあり方基本方針の見直し	○	○	○	○	○
6	向原保育園の移転・再整備					○

2 家庭教育・保育の充実

- ✓ 行事において保護者の参加機会を増やすなど、家庭との連携を深めます。また、地域行事への園での参加をきっかけとし、家庭としての参加を勧めていきます。
- ✓ 子育て相談や保護者交流、情報交換する場を提供するなど、幼稚園、保育園、こども園で子育て支援センターと同様の役割を担います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	家庭と地域との連携の強化による効果的な指導	○	○	○	○	○

指 標

	実績値(2022年度)	目標値(2028年度)
就学前児童数に対する入園率	73.7%	75%
3園相互の交流	6回	8回

第2項 小学校・中学校教育

基本方針

子どもたちが生涯にわたる学習の基盤と社会性を身につけることができるよう、「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」に基づき、5歳までの育ちを継続して、学校・家庭・地域・関係機関の連携のもとで、安心して学べる学校づくりや各学校の特色を生かした教育内容の充実、児童・生徒一人ひとりの個性や能力を生かす学校教育を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 今後、ますます激動することが予想される社会において、子ども一人ひとりが持続可能な社会（SDGs）の創り手となるための未来を切り拓く資質・能力として、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況に対応する思考力・判断力・表現力そして学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力などの「生きる力の育成」を進めています。
- ❖ 全国的に近年のいじめの重大事態の発生件数、不登校児童生徒数、児童生徒の自殺者数等の増加傾向や貧困・虐待・ヤングケアラー・孤立等の経済・教育の格差問題など、様々な困難を抱える児童生徒等に対する支援が必要となっています。この状況に対応するため、学校・家庭・地域・関係機関が一丸となって相互に協力する関係づくりの推進が求められています。
- ❖ 多様化する家庭環境や地域、社会情勢などを背景に、不登校やいじめ・虐待などの子どもの悩みや問題に対応した教育支援センターの運営や、スクールカウンセラーによる相談や関係機関との連携などを実施していますが、さらに継続して取り組んでいく必要があります。
- ❖ 障がいのある子どもや、支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応し、合理的な配慮による支援教育を推進することが重要となっています。
- ❖ 児童・生徒が安心して学ぶことができる学校施設の整備を進めるため、長寿命化計画に基づき、校舎や体育館の大規模改修工事などを進めていくことは不可避です。

施策と事業

1 教育内容の充実

- ✓ 令和の日本型学校教育がめざす「個別最適な学び」と「協働的な学び」をとおして基礎的・基本的な知識や技能の定着、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性などの資質・能力の向上を図ります。
- ✓ 「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」で示された「めざすこども像」を共有し、「山北スタンダードカリキュラム」等に基づいた実践教育と検証に取り組むとともに、園・小・中学校の接続と連携を重視した系統的な教育を推進します。
- ✓ 正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食文化と生産・流通等の正しい理解を深め、食に関する指導を進めます。
- ✓ 授業力の向上をめざすため、教育専任指導員を配置する等校内研究会の充実を図り教職員の資質・能力を高めます。
- ✓ 一人1台端末を生かした情報教育や国際理解教育、環境や福祉、健康など横断的な視点からとらえた総合的な学習を推進します。
- ✓ 人権の尊重や命の大切さなど、内面に根ざした道徳性を育成します。
- ✓ 「やまきた学び」を中核として、地域の特色ある学びと豊かな体験活動をとおして郷土に愛着をもち、歴史と伝統文化を尊重する心を育成します。
- ✓ 運動する楽しさを味わい実践する力を育て、体力の向上を図ります。
- ✓ いじめ問題に対する未然防止と早期発見、早期対応に努めるとともに、いじめや不登校など子どもや保護者の悩みに対応する相談体制の充実を図ります。
- ✓ 学校運営協議会に地域コーディネーターを配置し、地域学校協働本部として家庭・地域との連携をさらに強化するため、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域とともに子どもたちを育む体制を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進	○	○	○	○	○
2	校外講師活用事業の実施	○	○	○	○	○
3	「0歳から15歳までの一貫教育・保育」カリキュラムの編成と見直し	○	○	○	○	○

2 社会の変化に対応した教育の充実

- ✓ 情報モラルを身に付け、情報手段の適切な活用を図るため、情報活用能力の向上を図ります。
- ✓ 国際理解教育を推進するため、外国人補助教師（ALT）等を活用した学習環境を整備し、**小学校・中学校のみならず、幼稚園・保育園・こども園にALTを派遣する等、乳幼児期から日常的に英語に触れる機会を増やして親しみを持たせる環境づくり**をするとともに、実用英語技能検定の検定料補助により受験を促進し、英語力の向上を図ります。
- ✓ 森林と清流など地域資源を生かした森林環境教育の教材開発と、**地域の資源や人材と連携しながら森林の中で木々に触れ、実際に間伐する等のフィールドワークを取り入れた地域ぐるみの森林**体験学習を推進します。
- ✓ 職場見学・体験活動などによりキャリア教育を推進します。
- ✓ コミュニティ・スクールを推進し、ボランティア活動などの地域教育力を活用した開かれた学校づくりを進めます。
- ✓ **介護施設訪問や認知症サポーター養成講座等を通じて、高齢者福祉、障がい者福祉について考え、より身近な問題として捉える教育活動を推進します。**
- ✓ 実効性のある防災訓練に参加し防災意識を高めることで、安全・安心な生活を育みます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	ICT情報の活用能力の向上	○	○	○	○	○
2	環境教育の推進	○	○	○	○	○
3	キャリア教育の推進	○	○	○	○	○
4	防災訓練・安全教育の推進	○	○	○	○	○

3 支援教育の充実

- ✓ 障がいのある子どもや、支援の必要な子どもの個性や能力を伸ばすインクルーシブ教育を進めます。
- ✓ 家庭の状況に応じたきめ細かな相談・指導体制の充実を図るため臨床心理士等の配置を行います。
- ✓ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOROプラン」の一環として、教育支援センターの活動とその内容の充実を図ります。
- ✓ 個々の児童・生徒に対応するため、家庭や医療、福祉等の関係機関と連携した教育や支援を進めます。
- ✓ 町教育支援委員会及び園・小・中異校種間の情報交換や交流の充実を図り、指導方法及び児童・生徒間の相互理解を深めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	障がいのある子どもたちや支援の必要な子どもたちの個性や能力を伸ばす教育の推進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値(2028年度)
英語検定補助の申請者数	30人	75人
臨床心理士の活用（巡回相談）	30回	40回

4 学校施設等の整備

- ✓長寿命化計画（個別施設計画）に基づき、学校施設の大規模改修工事などの施設整備を行います。
- ✓学習しやすい環境づくりや教育活動の充実及び社会体育活動や災害時の避難所対応のために、体育館のエアコン整備や設置機器の更新を行います。
- ✓学校給食の民間委託等を継続し、安心、安全でおいしい給食を提供します。また、給食費の一部補助や無償化について検討をしていきます。
- ✓学校や園の統廃合に伴う清水・三保地区の園児、児童及び生徒のスクールバスの運行については、効率的で安全・安心な運行に努めます。
- ✓ICT教育を推進するため、電子黒板の整備とICT支援員配置のさらなる充実を進めるとともに一人1台パソコンや教職員の校務用パソコン等を順次更新します。
- ✓遠距離通学児童・生徒に対する通学費の助成を行います。
- ✓少子化に伴う教育環境のあり方について見直しを行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	ICTシステム更新事業の実施			○	○	○
2	校舎の大規模改修工事の実施	○	○	○	○	○
3	学校体育館のエアコン整備の実施			○		○

第3項 地域教育力

基本方針

地域や県立山北高等学校、鹿島山北高等学校との交流と連携をより一層深めます。また、相乗的に特色や魅力を高め合い、地域に密着し開かれた学校づくりや子育て支援に取り組みます。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町は、県立山北高等学校のコミュニティ・スクールにおける地域との連携に協力します。また、高校の生徒が行う幼稚園・保育園・こども園等の体験学習などを支援することで、交流と連携を図っていきます。
- ❖ 山北町の教育特区認定により、旧三保小中学校に株式会社立で設置されている通信制高校「鹿島山北高等学校」に対し、山北町は、観光イベントや地域との交流・支援をとおり、次代を担う青少年の教育・育成に努めていきます。
- ❖ 国の「学校を核とした地域力強化プラン」を継承し、山北町として地域学校協働活動を推進し、地域と学校との交流や連携を深めていく必要があります。
- ❖ 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン及び県の示す方針に基づき部活動の地域移行を円滑に推進していきます。
- ❖ 共働き家庭などのため、子どもたちが放課後などに、安全で安心して過ごすことのできる居場所として、川村小学校の余裕教室を利用して開設した放課後児童クラブ（学童保育）の充実を図るとともに、同様に川村小学校で実施している放課後子ども教室と一体的に人材の確保を進めていく必要があります。

施策と事業

1 交流の促進

- ✓ 県立山北高等学校における探究的な学びと地域振興を推進するための支援を行います。
- ✓ 県立山北高等学校や鹿島山北高等学校と地域、スポーツ・文化活動による交流を促進します。
- ✓ 高齢者や地域の人材を活用した学習を推進します。
- ✓ 地域と学校との交流や連携を深めるため、小・中学校の学校公開を行います。
- ✓ 部活動地域移行推進協議会を開催し、山北町の実態に合った部活動の地域移行の在り方や方向性を検討していきます。
- ✓ 町の各種事業への協力や参加により、子どもたちの地域学習を推進します。
- ✓ 生涯学習支援者バンク登録者など地域の人材を活用した生涯学習活動を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	インターンシップ・ボランティア活動への協力（町・町民）	○	○	○	○	○
2	カヌーマラソン、スポーツの秋祭り、丹沢湖マラソン等への協力依頼	○	○	○	○	○
3	地域の人材発掘や指導育成、支援ボランティア活用の検討	○	○	○	○	○
4	休日の中学校部活動地域移行			○	○	○

2 就学の機会の充実

- ✓ 進路選択のために、生徒のニーズに応じた情報提供、進路相談に努めます。
- ✓ 就学支援制度や奨学金制度の見直しを行い、経済的に支援の必要な児童・生徒の就学機会の増に努めます。
- ✓ 若者の定住促進や就職後の経済的支援のため、一定の条件により山北町育英奨学金の返還を免除します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	就学支援制度や奨学金制度の充実	○	○	○	○	○
2	育英奨学金の返還免除制度	○	○	○	○	○

3 子どもの居場所づくりの推進

- ✓ 放課後の児童の居場所づくりや異年齢交流を図るため、放課後児童クラブと連携を図りながら放課後子ども教室を実施します。
- ✓ 放課後や長期休暇中も安全で安心して子どもが過ごすことのできる学童保育の充実を図ります。
- ✓ 国の定める放課後子ども総合プランや基準を踏まえた学童保育の水準を確保するため、専門的な知見を有する運営業務の受託者の選定に努めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	放課後児童クラブの充実	○	○	○	○	○
2	適切な学童保育運営業務の受託者の選定	○	○	○	○	○
3	放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
小学校児童数に対する放課後児童クラブ利用登録率	30.9%	36%
就学児童数に対する放課後子ども教室の登録率	35.9%	40%

第4項 青少年の健全育成

基本方針

学校・家庭・地域が連携し、望ましい生活習慣の確立など家庭での自立への基盤づくりを支援します。また、多様な体験活動の機会を提供し、郷土愛を育むと同時に青少年が心身ともに健全に育つ環境づくりを進めます。

現状と課題
必要性

- ❖ 青少年健全育成会・青少年指導員協議会などの青少年関連団体の活動を支援するとともに、地域の人材を活用した体験教室や行事の開催など諸施策を進めています。
- ❖ 社会環境の目まぐるしい変化に伴い、青少年が巻き込まれる犯罪も多様化しています。青少年問題協議会では町内の動向だけではなく、町外の青少年犯罪などの情報の共有を関係機関と図っています。
- ❖ 多様化する家庭環境による家庭教育の格差、人口減少や高齢化による地域環境の変化などが青少年の教育に及ぼす影響について問題視される中、地域社会の一員として健全な成長を促していくことが重要な課題になっています。
- ❖ 学校・家庭・地域との連携をこれまで以上に強化し、取り組みをさらに充実しながら、望ましい生活習慣の確立など家庭での自立への基盤づくりを支援するとともに、多様な体験活動を根づかせ、夢と希望を持ち、社会と関わりながら自己実現できるよう、青少年の健全な成長を支援していく必要があります。

施策と事業

1 交流の促進

- ✓ 学校や地域の行事など、青少年と地域との交流を促進します。
- ✓ 地域人材の育成・活用推進事業の充実に努めます。
- ✓ ライブ・イン・山北や野外活動研修といった学校や地域の行事など、青少年と地域との交流を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	青少年と地域との交流促進	○	○	○	○	○

2 活動の支援

- ✓ 青少年健全育成会・青少年指導員協議会の活動を支援するとともに、青少年問題協議会を開催し青少年の健全な育成を図ります。
- ✓ 青少年スポーツクラブなどの青少年団体の自主的な活動を支援するとともに、活動の場所の確保を図ります。
- ✓ 青少年健全育成大会の内容の充実に努めるとともに、青少年指導者の支援・育成に努めます。
- ✓ 乳幼児の育児について学習する機会と親子や親同士のふれあいの時間を提供することで、家庭教育の推進を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を図り、青少年が健全に育つ環境整備を進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	青少年スポーツクラブの支援	○	○	○	○	○
2	青少年指導員活動の支援	○	○	○	○	○
3	青少年問題協議会の開催	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2023年度）	目標値(2028年度)
野外活動研修参加者数	24人	35人

第2節 生涯学習・生涯スポーツ・文化活動

第1項 生涯学習

基本方針

山北町教育大綱に基づき生涯学習推進プランを策定し、町民のライフステージに応じた学習機会を通じて、豊かで充実した生活を送ることができるよう、地域に根ざした生涯学習の活性化を進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 生涯学習に対する町民のニーズなどに対応するため、生涯学習推進プランに基づき、生涯学習活動事業や各種教室などの生涯学習センター活動を推進するとともに、生涯学習センター登録団体の支援などに努めています。
- ❖ 生涯学習センター図書室では、図書資料の充実をはじめ、インターネットによる図書の貸し出し予約及び図書の検索、さらに県図書館情報ネットワークシステムによる県内図書館との連携や情報交換など、図書室の充実を進めています。また学校などの町内児童関連施設と連携し、様々な活動を積極的に実施し利用促進に努めています。
- ❖ 令和2年11月から導入した電子図書館については、省力化・省スペース化・非来館型のサービスが可能となるなどの利点を生かし、若者世代を中心に**利用の促進を図り**、読書人口を確保します。そのために電子図書館は、**今後も図書を充実し**「デジタル社会に対応した読書環境の整備」として今後も継続していく必要があります。
- ❖ 近年の高齢化社会の進展やライフスタイルが多様化している中、自らの学習成果を地域や社会で生かしたいと考える人を的確に捉え、生涯学習活動を支援・促進することはますます重要になってきています。
- ❖ 町民一人ひとりの能力や資質の向上をとおして、豊かな人生を享受し社会の発展に貢献できるよう、さらに多様な学習の機会と場を確保し、学習成果の評価や発表の場を充実するとともに、生涯学習関連施設の活用とその連携強化を図るなど、生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができ、その成果を生かし、学ぶ楽しさを実感できる環境を整えていく必要があります。
- ❖ 第二次山北町子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの成長に合わせた「ブックスタート」「セカンドブック」「サードブック」事業により、子どもの読書への興味・関心を向上させ習慣づけるよう取り組みます。

施策と事業

1 生涯学習の総合的な推進

- ✓ 地域住民の学習需要を的確に捉え、多様な講座・教室を開催できるよう学習機会の充実に努めます。
- ✓ 生涯学習推進協議会の開催などを通じ関係団体との連携を強化し、全町的な視点から推進方策を検討します。
- ✓ 生涯学習支援者バンクの活用による指導者・ボランティアなどの育成・確保を進めます。
- ✓ インターネットやSNSなど、多様な媒体を活用した学習情報の提供の充実を図ります。
- ✓ 自治会や各種団体が行う生涯学習活動事業推進のため、助成を行います。
- ✓ 第二次山北町子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	生涯学習推進協議会の開催	○	○	○	○	○
2	生涯学習活動事業推進への支援	○	○	○	○	○
3	やまぶき学級等の生涯学習事業の開催	○	○	○	○	○

2 生涯学習センターの充実

- ✓ 読み聞かせ、紙芝居、コーラスなどのボランティア団体の拠点作りや情報交換等の活動支援を行います。
- ✓ 町民文化祭と生涯学習センターフェスティバルを開催し、地域の文化・芸術活動を支援します。
- ✓ サマースクール・スプリングスクールに行う講座・教室に学習支援を加え、学校教育と連携・支援を図ります。
- ✓ 寄席やコンサートなどを定期的で開催し、地域住民に優れた芸術鑑賞の機会を提供します。
- ✓ Web予約や蔵書検索機能の充実や図書館相互貸借を活用した利便性向上に努めます。
- ✓ 電子図書館を通じて園・学校などと連携し日常的な読書活動の推進に努めます。
- ✓ ホームページやSNSを通して積極的に情報発信をしていきます。
- ✓ ロビーやホワイエにおける展示やコンサートの開催など、スペースの有効活用に努め、さらなる生涯学習活動を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	生涯学習センター機能の充実	○	○	○	○	○

指 標

	実績値 (2022年度)	目標値(2028年度)
生涯学習センター登録団体数	21団体	25団体
生涯学習センター各種教室の参加者数	2,824人	3,000人

第2項 生涯スポーツ

基本方針

子どもから高齢者まで、町民誰もが気軽にスポーツ活動に親しむことができる機会を提供し、「レッツ・エンジョイ・スポーツ」がコンセプトである生涯スポーツ推進プランに基づく生涯スポーツの振興を図るとともに健康づくりに貢献します。

現状と課題
必要性

- ❖ 少子高齢化の進行に伴い、疾病の治療や介護に係る社会的負担は高まっています。そのため、健康増進の観点からも、高齢者のみならず全ての住民の健康で生きがいのある暮らしを支えるスポーツの役割は大きくなっています。
- ❖ 近年では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際競技大会が開催されたことにより、健康増進や体力づくりの一環として、スポーツに対する町民意識は高まる傾向ですが、依然として習慣化されていない状況です。
- ❖ 生涯スポーツ推進プランに基づき、丹沢湖マラソン大会をはじめとした各種スポーツ大会を開催するとともに、カヌーやSUP（スタンドアップパドルボード）など町の特色を生かしたスポーツの普及に努めていますが、さらに魅力ある大会となるよう取り組むとともにスポーツ習慣化に繋がる事業を推進し、生涯スポーツの振興に努める必要があります。
- ❖ 旧山北体育館の代替施設はスポーツを楽しむだけでなく、地域コミュニティの中心となるような施設とすることを基本理念として、建設・利用を推進します。
- ❖ パークゴルフ場など既存施設の維持管理に努め、今後の部活動の地域連携や地域移行による利活用も想定した中で施設のあり方や、町民の利便性を図るための施設予約システムの導入を検討していく必要があります。

施策と事業

1 スポーツ活動の推進

- ✓ 町民誰もがいつでも、どこでも楽しめる健康づくりのためのスポーツやニュースポーツを推進します。
- ✓ 総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体、青少年スポーツクラブの活動を支援します。
- ✓ スポーツイベントへの参加促進とイベントによる町内外の幅広い交流を推進します。
- ✓ スポーツ推進委員や青少年スポーツ指導者の研修の実施や活動の場の確保を図ります。
- ✓ 「やまきたスポーツの秋祭り」を開催し、町民の健康・体力づくりを推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	生涯スポーツ推進プランの推進	○	○	○	○	○
2	スポーツ推進委員の活動支援	○	○	○	○	○

2 スポーツの場の整備と活用

- ✓ 豊かな自然や歴史などを生かした活動しやすいスポーツの場を提供します。
- ✓ 小・中学校の体育施設の維持管理や有効利用など、スポーツ施設の充実を図ります。
- ✓ パークゴルフ場の芝や設備などの維持管理に努め、町民の利用促進を図ります。
- ✓ 旧山北体育館の代替施設の建設を行い、建設後は利用促進を図ります。
- ✓ 県西地域における施設の相互利用の促進と情報提供の充実を図ります。
- ✓ カヌーのまちづくりや丹沢湖の湖面を利用したスポーツを推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	パークゴルフ場のコース維持管理	○	○	○	○	○
2	旧山北体育館の代替施設の建設・利用促進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
パークゴルフ場利用者数	15,231人	18,000人

第3項 文化活動

基本方針

町民の自主的で活発な文化活動を促進していくため、文化団体等の活動の支援や町民の鑑賞の機会を提供するとともに、文化遺産への理解と保護意識の啓発を図りながら、積極的な推進を図ります。

現状と課題 必要性

- ❖ 町民の芸術文化活動に対する関心や参加意欲の高揚を図り、町民文化祭などを通じて交流活動を促進するとともに、生涯学習センターを拠点とした展示会や鑑賞会など、芸術文化にふれる機会を充実させていく必要があります。
- ❖ 文化団体やサークル活動など、町民の自主的な文化活動を支援しながら、成果発表の場と鑑賞の機会を確保していく必要があります。
- ❖ ユネスコ無形文化遺産に登録された「山北のお峰入り」をはじめ、地域の歴史・文化を守り、後世に伝えていくためにも、文化財の保存や継承を支援し、関係団体等と連携し文化財の理解と保護意識の啓発に努めています。
- ❖ 地域に残された文化財や史跡を地域振興に生かすため、河村城址歴史公園の整備を進めながら、その活用に努めていく必要があります。また、無形民俗文化財の保存と伝承については、その担い手不足と高齢化が課題となっています。

施策と事業

1 文化活動の推進

- ✓ 社会情勢に応じた講座や講演会などを開催します。
- ✓ 地域の各種文化団体、サークル等の自律的かつ持続的な文化活動を支援します。
- ✓ ホームページやSNS、動画配信サービスなどを活用した町の文化情報発信の充実を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	文化団体連絡協議会の支援	○	○	○	○	○

2 文化財の保存と活用

- ✓ 歴史を学び、当時を体験できる空間として県指定史跡河村城跡を整備し、**活用を図り**ます。
- ✓ 「山北のお峰入り」「室生神社の流鏝馬」「世附の百万遍念仏」「川村囃子」「白簀神社祭り囃子」などの無形民俗文化財の保存・継承・**活用**を支援します。
- ✓ ユネスコ無形文化遺産に登録された「山北のお峰入り」をはじめ文化財を生かしたまちおこしを**推進**します。
- ✓ 文化財講座では屋内での講座だけではなく、町内の歴史・文化財に関わる場所をめぐるツアーを行うなど内容の充実を図ります。
- ✓ 歴史や文化遺産と観光事業を連携させた取り組みの**拡充**を図ります。
- ✓ 文化財についてわかりやすい情報を発信するためにホームページや動画配信サービスなどを活用します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	河村城址歴史公園の整備・ 活用	○	○	○	○	○
2	無形民俗文化財等の保存・継承に係る支援と 活用の推進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値 (2022年度)	目標値(2028年度)
歴史・文化に係る動画配信数	17本	22本
文化財講座参加者数	23人	90人

第3節 人権

第1項 男女共同参画社会

基本方針

男女が互いの生き方を尊重し、家事や子育てを役割分担するなど、男女がともに参画する社会環境づくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 行動や慣習のなかに根強く残る固定的な性別役割分担意識に気づき、これを克服していくことが大切です。
- ❖ 性別などにかかわらず健康で安心した生活を送ることができ、男女がともにまちづくりに主体的に参画できる環境を整えることが必要です。また、女性はライフサイクルを通じて男性とは異なる健康上の問題に直面することがあります。このため、女性保護に対する社会的な認識を深めるとともに、女性の生涯を通じた健康の保持と増進を図ることも必要です。
- ❖ 働く女性が増えるなか、女性の果たしている役割が適正に評価され、男女が対等なパートナーとなる必要があります。こうした中、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革も注目されており、男女が生き生きと働けるよう、女性の活躍を支える環境整備を図るとともに、男性も女性も仕事と家庭が両立できる社会の実現が求められています。
- ❖ ドメスティック・バイオレンスと呼ばれる男女間の暴力や、セクシュアルハラスメントなどの社会問題への対応も課題となっています。

施策と事業

1 男女共同参画社会の推進

- ✓ 町が設置する審議会などへの積極的な女性の登用を図り、多様な分野に女性の視点を反映させ、女性の社会参加を促進します。
- ✓ 学校の教育活動全体をとおして児童・生徒へ男女共同参画の意識づくりを進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	やまきた男女共同参画プランの推進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2023年度）	目標値（2028年度）
審議会などへの女性の登用率	23.8%	30%

第2項 人権

基本方針

国籍の違い、障がいの有無、年齢、性別等に関わらず、すべての人々が互いを認め合い尊重する人権のまちづくりを目指すとともに、差別がなく誰もが幸せに暮らすことができる共生社会の実現のために、あらゆる機会を通じて人権教育および人権啓発を効果的かつ継続的に推進します。また、人権擁護委員等の関係機関との連携を図りながら、人権相談に関する取り組みを積極的に推進します。さらに、すべての人々の人権が尊重される明るく住み良いまちづくりの実現のために町民とともに取り組みを推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ すべての人々の基本的人権が尊重され、平等で住みやすい共生社会の実現を目指し人権・同和啓発推進協議会を中心として、人権講演会の開催や啓発チラシ等の配布、さらに学校や幼稚園・保育園・こども園における幼少期からの人権意識を育てる教育や人権擁護活動などを継続して進めていきます。
- ❖ L G B T等性的マイノリティの多様な性のあり方等について、正しい理解と認識を深めるための啓発活動と、性的マイノリティの方々が生活の様々な場面で暮らしやすい環境づくりを支援するためのパートナーシップ制度の充実を推進していきます。
- ❖ 人権擁護委員等の関係機関との連携を図りながら、人権相談に関する取り組みを引き続き推進していきます。
- ❖ インターネット上の人権侵害に対して、関係機関との連携を図りながら適切に対応していきます。
- ❖ 町職員や教職員に向けた人権研修会や学校における人権意識を育てる教育を継続して進めていきます。


 施策と事業

1 人権を守るまちづくりの推進

- ✓ 多様化する人権課題について正しい理解と認識を深めるため、人権教育や町民への啓発活動を継続して実施します。
- ✓ 人権擁護委員と連携して人権相談体制の充実を図ります。
- ✓ 自治会、議会、教育機関等の関係団体で構成される人権・同和啓発推進協議会を中心に、人権推進体制の充実を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	人権啓発関係学習会等の開催	○	○	○	○	○
2	広報紙、ちらし等による啓発活動の実施	○	○	○	○	○
3	心配ごと相談、法律相談の充実	○	○	○	○	○
4	人権・同和啓発推進協議会活動の実施	○	○	○	○	○

	実績値（2023年度）	目標値（2028年度）
人権関係学習会等の参加者数	470人	600人

第3章 生活環境分野

扉

※必ず奇数ページ（右側）

第1節 防災・安全対策

第1項 防災対策

基本方針

町民の生命・財産を守るため、災害に強い安全なまちづくりを進めるとともに、減災に向けた施策の推進を図り、避難所などの防災設備の充実や自主防災組織の育成・強化及び防災意識の啓発など、自助・共助・公助がそれぞれに連携した地域ぐるみの防災施策の充実を図ります。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町は丹沢大山国定公園や県立丹沢大山自然公園などの豊かな自然に恵まれた環境を有していますが、反面、土砂災害警戒区域が多く、また、町内を流れる複数河川では水害の危険性をはらんでおり、大地震や豪雨などによる災害の可能性が高い地域です。
- ❖ 町民が安全で住み良く、暮らしやすい生活環境の確保を図るため、防災に配慮した土地利用や建物の安全確保などの防災・減災対策を図り、災害に強いまちづくりを進める必要があります。
- ❖ 災害の未然防止に向けて、水防法や土砂災害防止法に基づく洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の指定について、ハザードマップ等により町民への周知を図っています。また、町民の安全な暮らしを確保していくために、森林の適切な保全と河川などの整備を進め、継続して治山・治水事業を促進していく必要があります。
- ❖ 災害によって甚大な被害が発生し、町単独での対応が困難な場合に備え、県内外の市町村、関係機関などと応援協定を締結していますが、様々な協力体制を構築していくために、民間企業なども含めた応援協定の拡充を図る必要があります。
- ❖ 町民の防災意識の向上に向けて防災ハンドブックの更新、防災教育・研修会などを進めています。また、地域の自主防災組織のリーダーとなる人材の育成を通じて、地域の防災力向上を進める必要があります。
- ❖ 総合防災訓練、自主防災組織の育成・強化などに努めていますが、さらにこうした取り組みを進め、自治会等と連携しながら地域の特性を踏まえた防災訓練を実施して、町民の防災意識の高揚を図る必要があります。
- ❖ 災害により住宅等に被害をうけた住民の生活再建を速やかに支援するため、住宅等の被害認定作業や罹災証明書の発行などの手続きのデジタル化を推進する必要があります。
- ❖ 富士山火山災害、国民保護（テロや弾道ミサイルなどによる武力攻撃、化学物質や細菌による攻撃等への対策）、未知の新型感染症への対策などの発生の可能性は低いが発生した場合には町に重大な影響を及ぼす恐れがある災害に対して、適切な準備と危機管理対策を継続する必要があります。
- ❖ 町民の安全安心を確保するため、公共施設等の機能や適正な配置を図ると

ともに個別施設計画に基づき、計画的な修繕や維持管理を実施する必要があります。

施策と事業

1 防災施策の推進

- ✓ 山間地を多く有する地理的特徴や災害状況を踏まえ、山北町国土強靱化地域計画及び地域防災計画に沿った取り組みを進めます。
- ✓ 業務継続計画（BCP）に基づく非常時の行政機能の維持を図ります。
- ✓ 防災行政無線やあんしんメールなどの防災通信手段の維持増進を進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	国土強靱化地域計画及び地域防災計画の推進	○	○	○	○	○
2	国土強靱化地域計画及び地域防災計画の改定				○	○
3	業務継続計画（BCP）の改訂及び推進	○	○	○	○	○
4	防災通信手段の維持増進	○	○	○	○	○

2 減災対策の推進

- ✓ 急傾斜地崩壊対策事業により対策工事を促進します。
- ✓ 地震で被災した建築物の安全性の調査を行う震災建築物応急危険度判定士の緊急連絡体制の整備を進めます。
- ✓ 地震に強い安全なまちづくりを目指し、木造個人住宅の耐震診断と耐震改修に対し、助成します。
- ✓ 地震によるブロック塀の倒壊や落下による被害を防ぐため、所有者が行う安全点検に要する費用の一部を助成します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	用沢地区、台地区急傾斜地崩壊防止工事の促進	○	○	○	○	○
2	応急危険度判定士の緊急連絡体制の整備	○	○	○	○	○
3	耐震診断・耐震改修の推進	○	○	○	○	○
4	雨水幹線の維持管理	○	○	○	○	○
5	ブロック塀の安全対策の推進	○	○	○	○	○

3 防災意識の啓発

- ✓ 平常時における防災意識の普及・啓発に努めます。
- ✓ 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域及び特別警戒区域を町民に広く周知します。
- ✓ 水防法に基づく洪水浸水想定区域を町民に広く周知します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	防災教育・防災研修等の実施	○	○	○	○	○
2	土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域の周知	○	○	○	○	○
3	防災ハンドブックの作成	○				

4 自主防災組織等の育成、強化

- ✓ 自主防災リーダーの養成を図るため、防災に関する研修会や防災訓練などを実施します。
- ✓ 災害時の対応に関する防災講習会、防災資機材の整備や要援護者に対する支援など、自主防災組織の育成・強化を図ります。
- ✓ 福祉施設、学校、消防団などと一体となった防災訓練を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	自主防災リーダー等研修会の実施	○	○	○	○	○
2	自主防災組織活動の支援や育成・強化	○	○	○	○	○
3	防災教育・防災訓練の実施	○	○	○	○	○
4	防災資機材等の整備支援	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
自主防災リーダー等研修会参加者数	18人	25人
防災出前講座	3回	4回
総合防災訓練への参加者数 （各自主防災会の訓練参加者数を含む）	2,392人 （2023年度）	2,500人

第2項 消防・救急

基本方針

町民の火災への予防意識及び救急意識の向上を図るとともに、的確かつ迅速に対応できる消防力の強化を進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町の消防活動は、県西地域2市5町を管轄する小田原市消防本部と13分団から構成される消防団の非常備消防が担っていますが、地形的な特性や広い町域などにより消防活動が困難な地域もみられます。
- ❖ 全国的に地域消防の要となる消防団の団員の減少が続いているため、団員の加入促進が課題となっています。そのため、消防団あり方検討会議において、機能別団員を導入するなど消防力の確保を進めています。さらに、自治会や企業・事業所などの協力を得ながら、団員の確保に努める必要があります。
- ❖ 救急体制は、消防と同様に広域における体制が確立されていますが、出動件数は増加してきていることから高規格救急車の配備や救急救命士の育成、ドクターヘリの活用などによる高度救急体制の強化を図っています。今後こうした体制の強化、応急手当の知識の普及に努めていくことが重要になります。

施策と事業

1 消防力の強化

- ✓ 小田原市消防本部と消防団の連携を強化します。
- ✓ 消火栓や防火水槽などの消防水利を増設し強化します。
- ✓ 少子高齢化や消防団員の被雇用者の増加など社会情勢の変化に合わせた消防分団のあり方を検討します。
- ✓ 消防団の装備の更新や消防機器を整備します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	小田原市消防本部と消防団の連携を強化	○	○	○	○	○
2	消防水利の維持・整備	○	○	○	○	○
3	消防団のあり方検討	○	○	○	○	○
4	消防車両等の更新	○	○	○	○	○

2 火災の未然防止

- ✓ 自主防災組織が実施する消火訓練等を積極的に支援します。
- ✓ 火災予防チラシの配布や住宅用火災警報器の設置促進等による火災予防意識の普及・啓発に努めます。
- ✓ 小田原市消防本部の助言を受け消火訓練を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	自主防災活動の支援	○	○	○	○	○
2	火災予防意識の啓発	○	○	○	○	○
3	総合演習の実施	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2023年度）	目標値（2028年度）
消防団員の確保	185人	229人

第3項 地域安全対策

基本方針

町民と行政が一体となった交通安全意識や交通マナーの向上を図るとともに、歩道やカーブミラーなどの交通安全施設の整備や違法駐車対策など、安全な道路環境づくりを進め、交通安全対策の充実を図ります。

また、地域ぐるみによる防犯活動や防犯意識の向上を図り、犯罪のない安全なまちを目指すとともに、誰もが安心した消費生活を送れるよう、すべての年代に対する消費者トラブルの未然防止を図ります。

現状と課題 必要性

- ❖ 町民の交通安全意識の向上に向けて、山北町交通安全対策協議会をはじめ松田警察署、足柄交通安全協会、山北町交通指導隊などの関係機関と連携を図りながら、交通安全運動や園児や児童、高齢者などを対象とした交通安全教室などによる啓発活動を進めていますが、今後もさらに継続して進めていく必要があります。
- ❖ 危険箇所におけるカーブミラーやガードレール、見やすい道路標識の設置など、交通安全施設の整備を進めており、さらに危険箇所の改善による交通事故の未然防止に努めていく必要があります。
- ❖ 地域ぐるみで子どもたちを犯罪から守る「こども110番の家」の登録や防犯指導隊による夜間の防犯パトロールなどのほか、児童の通学時における連合自治会などによるパトロールや交差点での安全確保など、地域ぐるみの防犯活動が展開されています。
- ❖ 近年の犯罪の低年齢化や悪質な振り込め詐欺などの犯罪も増加の傾向にある中、町民の一人ひとりが防犯意識を高め、誰もが安心して暮らすことのできる安全なまちづくりを進めていく必要があります。
- ❖ 成人年齢の引き下げや、デジタル化の進展により商品の購入手段が多様化したことで、消費者トラブルも複雑化しています。
- ❖ 南足柄市消費生活センターとの連携をさらに深め、あらゆる年代に対する啓発活動を推進する必要があります。

施策と事業

1 交通安全意識の向上

- ✓ 交通安全対策協議会や警察、交通安全協会などと連携した交通安全運動を進めます。
- ✓ 様々な機会を活用した交通安全教育を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	交通安全関係団体との連携強化	○	○	○	○	○
2	交通安全教育・啓発活動の充実	○	○	○	○	○

2 交通安全施設の整備

- ✓ 見やすくわかりやすい道路標識を整備します。
- ✓ 歩行者と車両の交通の安全確保を図るため、ガードレールなどの交通安全施設の整備を推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	カーブミラーやガードレールなどの設置	○	○	○	○	○
2	交通看板の設置・整備	○	○	○	○	○

3 安全な道路環境づくり

- ✓ 路上駐車などのマナー違反の削減に努めるとともに、マナー向上に向けた啓発に努めます。
- ✓ 歩行者の安全を確保するため、通学路や歩道などの道路環境の整備を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	通学路などの道路環境整備	○	○	○	○	○

4 地域防犯活動の充実

- ✓ 警察署や防犯関係団体と協力して安全で安心な住みよいまちづくり条例に基づく犯罪の防止や防犯意識向上を目指した啓発活動の充実を図ります。
- ✓ 犯罪を未然に防止する地域防犯体制を育成します。
- ✓ 防災行政無線やあんしんメールを活用して犯罪情報等を随時配信します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	防犯指導隊活動の推進	○	○	○	○	○
2	防犯意識の普及・啓発	○	○	○	○	○
3	あんしんメールの運用及び普及	○	○	○	○	○

5 防犯灯等の整備

- ✓ 夜間の犯罪を未然に防止するため、防犯灯の計画的な設置を支援します。
- ✓ 防犯カメラを設置し犯罪を未然に防止します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	防犯灯設置助成	○	○	○	○	○
2	防犯カメラの設置	○	○	○	○	○

6 消費生活の向上

- ✓ 消費生活に関する情報収集に努め、町広報紙やホームページ、SNSなどを活用し、消費者トラブルの事例や対処方法などを発信します。
- ✓ 県及び近隣市町と連携した広域的な相談体制を維持・推進します。
- ✓ 消費生活に関する講座や講演会を開催し、教育体制を確保します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	近隣市町による消費者相談行政の推進（広域）	○	○	○	○	○
2	消費生活出前講座などの実施	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
交通安全運動・啓発活動	14回	15回
こども110番の家への登録者数	541件	600件
あんしんメールへの登録者数	2,887件	3,300件
定期防犯パトロールの実施回数	59回	60回
防犯カメラの設置箇所	17箇所	30箇所

第2節 環境

第1項 自然環境

基本方針

森林と清流のまちとしての特性を生かし、身近な生活環境を通じて環境学習を進めるとともに、独自の地球温暖化防止対策などに取り組み、地球的視野に立った、環境負荷の少ない持続可能な社会を町民・事業者・行政が一体となって目指します。

また、森林のもつ多様な機能への理解を深め、水源の森林づくりをとおし豊かな自然環境を保全するとともに、河川、湖などの水質の保全や生態系に配慮した河川等の整備、親水空間の創出を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が深刻化する中、世界各国での異常気象による風水害等の被害が拡大しており、**脱炭素化社会の実現**や環境保全対策への一層の取り組みが町民・事業者・行政それぞれに求められています。
- ❖ 森林と清流のまちとして、山北町環境基本条例に基づく環境基本計画に加え、“ストップ・温暖化やまきたアクションプラン”を実践し、各種の取り組みを行うとともに、山北町全体における温室効果ガスの排出削減対策や気候変動適応法に基づく計画を策定し、町民・事業者・行政が一体となって取り組みを進めていく必要があります。
- ❖ 環境にやさしい生活スタイルの普及や環境保全対策への取り組み、再生可能エネルギーの活用などをさらに進め、環境負荷の少ない持続可能な社会を目指していく必要があります。
- ❖ 町域面積の約9割を占める森林は、水源林として水を蓄え、豊かでおいしい水を安定して供給する機能や貴重な野生動物の生息の場、首都圏の観光レクリエーションの場などの多彩な機能を有しています。
- ❖ 国有林や県有林をはじめ森林の持つ癒しの機能を活用し、健康づくりや地域活性化を図るために森林セラピー基地の認定を取得し、セラピー体験ツアーを始め多くの取り組みを進めています。
- ❖ 森林の持つ癒しの機能に着目し、森林セラピー体験の参加者が継続して参加できるよう、セラピーロードや老朽化したサイン等の整備・修繕を進めていきます。
- ❖ 水源林としての森林整備や合併処理浄化槽の整備などの水源環境保全対策をはじめとして、広く県民の参画による水源の森林づくりに取り組んでいます。さらに町民はもとより、町に関わる人々に森林の持つ機能への認識を深め、森林と清流の環境を守り育む取り組みを充実していくことが重要になっています。
- ❖ 間伐等の森林整備は下層植生の発達に繋がり、森林の持つ多面的機能の増

進に繋がります。町内の森林は「急傾斜」や「スコリア層」等の土砂が崩れやすい要因もあるため、継続して間伐等の森林整備を強化することにより、災害によるリスクを軽減し森林の持つ土砂流出防備機能を高めていきます。

- ❖ 町内には酒匂川をはじめ9本の二級河川と丹沢湖があり、護岸の整備や河床の低下対策、丹沢湖の堆積土砂浚渫などを推進しています。今後もこうした対策をさらに進めるとともに、身近な水辺環境の整備や水質の保全に関わる諸施策などを実施していく必要があります。

施策と事業

1 環境にやさしいまちづくりの推進

- ✓ 環境基本計画に沿った環境にやさしいまちづくりを進めます。
- ✓ 環境基本計画の改定を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	環境基本計画の改定・推進	○	○	○	○	○

2 地球温暖化防止対策の推進

- ✓ 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき策定された“ストップ・温暖化やまきたアクションプラン”に基づく取り組みを行います。
- ✓ 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき地方公共団体実行計画（区域施策編）の策定を行い、町全体の温室効果ガス排出量削減について、町民・事業者・行政が一体となって取り組みを進めていきます。
- ✓ 公共施設における省エネルギーに取り組めます。
- ✓ 町民及び事業者が省エネルギーに努めるよう啓発活動を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	地球温暖化防止実行計画“ストップ・温暖化やまきたアクションプラン”の実践	○	○	○	○	○
2	地方公共団体実行計画（区域施策編）の策定・推進	○	○	○	○	○

3 再生可能エネルギー導入の推進

- ✓ 公共施設への太陽光発電システム等の設置を進めます。
- ✓ 用水等を活用した小水力発電施設の導入支援を進めます。
- ✓ 再生可能エネルギー・省エネルギー導入に対する補助金等の支援について検討します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	公共施設への太陽光発電システム等の設置	○	○	○	○	○
2	用水等を活用した小水力発電施設の導入支援	○	○	○	○	○
3	再生可能エネルギー・省エネルギー導入に対する補助金等の検討	○	○	○	○	○

4 環境教育の推進

- ✓ 町内の小学生がごみの分別やリサイクル等ごみの行方について学習する機会をつくり
ます。
- ✓ 幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校で園児・児童・生徒及び保護者に対して
緑化推進(グリーンカーテン)などの環境学習を行います。
- ✓ 身近な水による小水力発電のプロセスを実地で観察体験しエネルギーの大切さなどを
学習する場をつくります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	町内小学生のごみ収集車及び足柄西部環境センター等見学会の実施	○	○	○	○	○

5 水源の森林づくりの推進

- ✓ 豊かでおいしい水をつくり出す水源林としての森林整備を行います。
- ✓ 多様な自然環境の保全に配慮した森林づくりを実施します。
- ✓ 県民参加による水源の森林づくりを進めます。
- ✓ 災害に強い森林づくりを目指し、土壌保全機能の高い広葉樹林の整備を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	私有林整備への支援や公的管理による森林の機能回復	○	○	○		
2	森林の多面的機能のPR	○	○	○	○	○
3	県民参加による緑化活動の支援	○	○	○	○	○
4	下層植生の増進を図れる森林整備の促進	○	○	○	○	○

6 河川整備の推進

- ✓ 県と調整を図り、河川整備計画の策定及び護岸や河床などの整備を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	酒匂川水系における総合的な土砂管理の促進	○	○	○	○	○

7 小川、河川、湖の環境整備

- ✓ 丹沢湖に堆積した土砂の取り除きを推進します。
- ✓ 河川区域の有効利用について、調査・研究します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	丹沢湖土砂浚渫事業	○	○	○	○	○
2	河川区域の有効利用に関する調査・研究	○	○	○	○	○

指 標

	実績値(2022年度)	目標値(2028年度)
公共施設への太陽光発電システム等の導入調査・設置	0箇所	5箇所
町内で実施する森林ボランティアの参加人数	44人	280人

第2項 廃棄物処理

基本方針

山北町から排出されるすべての一般廃棄物について、ごみの分別収集や減量化、再資源化など適正処理を行うとともに、1市5町によるごみ処理の広域化を図りながら、資源循環型社会づくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に基づき、ごみの排出抑制及びごみの発生から最終処分に至るまでのごみの適正な処理を進めます。
- ❖ 資源循環型社会の実現に向けて、ごみの発生を抑えるとともに、町民や事業所等、行政が一体となって再利用、再資源化に取り組んでいく必要があります。
- ❖ 広報紙やホームページなどによる啓発活動を進めながら、可燃ごみをはじめ、不燃ごみ、粗大ごみ、リサイクル品のほか、容器包装リサイクル法に基づくペットボトルやトレーの回収を実施するとともに、家庭用コンポストなどの設置へ助成を行い、ごみの減量化と再資源化に取り組んでおり、さらにこうした取り組みを充実していく必要があります。
- ❖ 足柄上地区における資源循環型処理施設整備の実現を図るため、1市5町の連携による足柄上地区ごみ処理広域化協議会において、ごみ処理の広域化についての検討を進めています。
- ❖ プラスチック資源循環促進法に基づくプラスチックの包括的な資源循環体制を強化する必要があります。

施策と事業

1 分別収集の推進

- ✓ 山北町一般廃棄物（ごみ）処理計画に基づき分別収集を行います。
- ✓ 町民や民間事業所へのリサイクルの普及啓発・活動支援を図ります。
- ✓ ごみの減量化と生ごみの堆肥化等を進めるため、家庭用コンポストや生ごみ処理機設置への助成を行います。
- ✓ 各種団体による資源回収活動への助成を行います。
- ✓ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進めます。
- ✓ リユース事業者との連携を進めます。
- ✓ 使用済みプラスチック製品等の分別収集を検討します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	容器包装リサイクル法によるペットボトル・プラスチック等の資源ごみの回収	○	○	○	○	○
2	家庭用コンポストや生ごみ処理機への助成金の支給	○	○	○	○	○
3	アルミ缶等の資源回収団体への助成	○	○	○	○	○
4	小型家電の分別収集の実施	○	○	○	○	○

2 ごみ処理広域化の推進

- ✓ ごみ処理の広域化計画に基づき近隣市町と連携して資源循環型処理施設の整備を検討します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	足柄上地区において資源循環型処理施設の整備を検討	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2021年度）	目標値（2028年度）
<u>リサイクル率の向上</u>	<u>18.2%</u>	<u>30.0%</u>
廃棄物の排出数量	3,426 t	3,000 t

第3項 環境衛生

基本方針

町民の住みよいまちづくりのため、不法投棄の防止や有害虫への対策、ペットの飼主の責任感及びマナー向上対策などの環境衛生活動を進めます。

また、公害の未然防止に努めるとともに、環境学習や環境問題に対する啓発活動を推進し、快適な環境づくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町は森林と清流のまちとして豊かな自然環境を有していますが、バーベキュー等のごみのポイ捨てや廃棄物の不法投棄が多く深刻な問題となっています。
- ❖ 循環型社会の実現のためにごみの減量化や再資源化が求められる一方で、廃棄家電製品等の不法投棄の増加が目立ってきています。
- ❖ 来町者によるごみの不法投棄が増えているためマナーの向上促進、広報紙やホームページ、クリーンキャンペーンや不法投棄撲滅キャンペーンなどによる啓発活動を進めるとともに、関係機関との連携を図りながら不法投棄などに対するパトロールを強化しています。不法投棄抑制対策をさらに充実していく必要があります。
- ❖ ペットの飼主が最後まで面倒を見る責任感やマナー向上に向け、広報紙、ホームページなどによる啓発活動を実施していますが、さらに継続してこうした取り組みを進めていく必要があります。
- ❖ 大型野生動物には、マダニ等の有害虫が寄生しており、大型野生動物が出没するエリアには、これらの有害虫も発生することになるため、生息区域の拡大防止対策を講じる必要があります。
- ❖ 快適な環境づくりに向けて、各種団体により公園や緑地等に草花を植栽する花いっぱい運動や、環境美化活動が展開されていますが、さらに町全域にこうした運動を広げていくことが重要です。
- ❖ 神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、町内の事業所に対して指導や監視、観測などを実施し、公害の未然防止に努めており、継続してこうした取り組みを進めていく必要があります。
- ❖ 環境問題に理解を深めるため、イベント会場でごみの分別を行い、環境・衛生ブースを設け環境啓発に努めています。町民・事業者・行政が一体となって快適な環境づくりを進める必要があります。

施策と事業

1 不法投棄の防止

- ✓ 神奈川県との不法投棄防止合同パトロールを実施します。

- ✓ 森林と清流を保全する不法投棄防止の啓発活動を実施するなど、不法投棄を抑制する環境づくりを進めます。
- ✓ 豊かな自然環境を守るため、関係機関と連携したクリーンキャンペーンや啓発活動を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	看板の設置及びパトロールの実施	○	○	○	○	○
2	丹沢大山・酒匂川・町内統一クリーンキャンペーンの実施	○	○	○	○	○

2 有害虫の駆除

- ✓ ヤマビル等の有害虫の調査・駆除対策を行います。
- ✓ マダニ対策は、県等の関係機関から情報収集し、生態や対策について調査研究を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	ヤマビル駆除剤の配布	○	○	○	○	○
2	マダニの生態について情報収集・対策検討	○	○	○	○	○

3 ペットの飼主マナー向上対策の充実

- ✓ 動物愛護思想の普及を図ります。
- ✓ 飼主のマナー向上にむけた啓発活動に努めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	マナー看板の配布や広報紙による啓発	○	○	○	○	○

4 環境問題に対する指導、啓発

- ✓ 神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく事業所の監視活動及び指導等を実施します。
- ✓ 野焼きの禁止など生活環境問題について、広報紙への掲載等による啓発活動に努めます。
- ✓ 各種団体による花いっぱい運動など環境美化運動を支援します。
- ✓ 町内で清掃活動（環境美化）を行う団体に対してごみ袋配布などの支援を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	町、県合同による事業所への立入検査の実施（町・県）	○	○	○	○	○
2	地域の身近な公園・緑地等に草花を植栽する各種団体への苗木等の支給	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
不法投棄防止パトロールの実施回数	5回／月	5回／月

第3節 住環境

第1項 住宅環境

基本方針

豊かな自然環境と調和した良好な住宅地の開発・誘導や町営住宅の整備等を図りながら、定住につながる良好な住宅環境づくりを進めます。

また、森林と清流の豊かな自然環境を生かし、町民誰もが憩える場となる身近な公園から地域の特性を生かした緑地などの整備を進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 町営住宅は、住宅マスタープランや町営住宅等長寿命化計画などに基づく良質な住宅の供給、建て替えや用途廃止なども視野に入れた再編を進める必要があります。
- ❖ 土地利用計画に基づき、既存市街地に点在する空地などの未利用地の利用や、特定地域の利用検討ゾーン・利用検討ゾーン予定地の土地利用転換を図りながら、良好な住宅地の確保に努めていく必要があります。
- ❖ 山北町空家等対策計画に基づき、空家等の適切な管理を促進するとともに、発生そのものを抑制する施策を進める必要があります。
- ❖ 市街地における都市公園の整備など、町民にとっての身近な憩いの場づくりを進めてきています。
- ❖ 今後も、都市計画マスタープランや緑の基本計画に基づき、町民の身近な街区公園をはじめとした住区基幹公園の整備の推進及び山北つぶらの公園の整備の促進を図る必要があります。

施策と事業

1 住宅地の整備

- ✓ 住宅マスタープランに基づく住宅整備や道路整備などの都市基盤整備を進めます。
- ✓ 東山北1000まちづくり基本計画に基づき、民間活力を活用した住宅開発や基盤整備を適切に誘導・促進します。
- ✓ 未利用地の宅地化を進めます。
- ✓ 住宅地域を中心とした道路整備や、オープンスペースの確保によるゆとりある居住環境の形成を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	住宅マスタープランの進行管理	○	○	○	○	○
2	未利用地の宅地化推進	○	○	○	○	○
3	民間活力を活用した水上・尾先地区等の住宅開発の促進	○	○	○	○	○

2 町営住宅の整備

- ✓ 住宅マスタープラン及び町営住宅等長寿命化計画に基づく計画的な事業を実施します。
- ✓ 町営住宅の再編整備にあたっては、PFI等の民間活力の活用を含めて検討します。
- ✓ 老朽化した町営住宅の建て替えや用途廃止等を進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	町営住宅の再編整備の推進	○	○	○	○	○
2	民間活力を活用した町営住宅整備の検討	○	○	○	○	○

3 特定空き家等対策の推進

- ✓ 特定空家及び管理不全空家対策のため、山北町空家等対策計画に沿って推進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	特定空家等対策の推進	○	○	○	○	○

4 住区基幹公園の整備

- ✓ 緑の基本計画などに基づき計画的に住区基幹公園を整備します。
- ✓ 積極的な緑地の保全による憩いの空間づくりに努めます。
- ✓ 既存公園の適切な維持管理及び改修に努めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	緑の基本計画の改訂			○	○	
2	住区基幹公園整備の推進	○	○	○	○	○
3	住区基幹公園の維持管理	○	○	○	○	○

5 県立山北つぶらの公園の整備促進

- ✓ 県と調整を図り、山北つぶらの公園の整備を促進し、町民が憩える場所を創出します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	県立山北つぶらの公園の整備促進	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
民間活力を活用した町営住宅整備	97戸	117戸

第2項 上水道

基本方針

町民が安心して利用できるおいしい水を安定して供給できるように、水道施設の維持管理を図りながら、将来を見据えた事業経営を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 上水道は、水道事業計画に基づき計画的な事業運営を図りながら安定した水を供給しています。
- ❖ 更新時期となる施設を計画的に更新し、安全でおいしい水の安定供給に努めます。
- ❖ 山北町水質検査計画に基づき、水質検査を実施します。また、上水道に関する情報をホームページや広報紙で発信していきます。
- ❖ 施設の更新を計画的に整備するため、適正な料金改定や事業運営を検討する必要があります。

施策と事業

1 水質の確保

- ✓ 適切な浄水処理と給配水過程における水質保全を図り、安心して飲める水の供給及び確保をします。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水源整備による水質の確保	○	○	○	○	○
2	適切な維持管理による水質の保全	○	○	○	○	○

2 水量の確保

- ✓ 水源の確保と配水池の整備・拡充を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水源及び配水池の整備・拡充	○	○	○	○	○

3 水道施設の整備

- ✓ 計画的に老朽化した水道施設の整備を実施します。
- ✓ 新東名高速道路建設に伴い、皆瀬川水源取水施設の整備を実施します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	老朽施設の整備更新	○	○	○	○	○
2	皆瀬川水源取水施設の整備	○	○			
3	丸山配水池、皆瀬川浄水場の再整備	○	○	○	○	○

4 管理体制の強化

- ✓ 浄水場や配水池における水質管理や水量等の監視システムの拡充・更新を行います。
- ✓ 水道施設維持管理の民間委託や広域化連携を検討していきます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水道施設維持管理の民間委託推進	○	○	○	○	○

5 町民サービスの向上

- ✓ 安全で安心な飲料水であることを周知するため、水質検査等の情報を提供します。
- ✓ 営業基盤の強化のため、経営の効率化を図ります。
- ✓ 経営の健全化を図るため、料金改定等の検討を行います。
- ✓ 町営水道以外の水道施設の整備を支援します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水質検査結果や水道事業啓発等を広報紙で周知	○	○	○	○	○
2	地区水道等への支援	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
配水量と料金として収入のあった水量との比率（有収率）	61%	70%

第3項 生活排水

基本方針

公共下水道や合併処理浄化槽の整備など、地域の特性に合った効率的な事業を進めながら、衛生的で快適な環境づくりを目指します。

現状と課題 必要性

- ❖ 生活排水処理基本計画に基づき、市街地及びその周辺地域では酒匂川流域公共下水道と連結した公共下水道の整備を進めるとともに、その他の地域では、合併処理浄化槽への転換を支援し、町全域で町民の衛生的で快適な住環境を確保していくことを推進します。
- ❖ 公共用水域の水質を維持していくためには、各家庭や事業所等からの排水を公共下水道へ接続することや、合併処理浄化槽への転換を推進するための啓発強化が必要です。

施策と事業

1 公共下水道の整備

- ✓ 計画的に汚水・雨水の排水対策を実施します。
- ✓ 供用区域内の接続率の向上を図ります。
- ✓ 老朽管の更新整備を計画的に実施します。
- ✓ 経営の健全化を図るため、料金改定等の検討を行います。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	広報紙や個別訪問等による下水道接続の促進	○	○	○	○	○
2	下水道施設の長寿命化整備	○	○	○	○	○
3	経営健全化のための適正な下水道使用料の見直し	○	○	○	○	○

2 合併処理浄化槽の整備

- ✓ 水源環境保全のため、合併処理浄化槽の普及促進を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水洗化を促進するための補助	○	○	○	○	○
2	合併処理浄化槽の整備促進・普及啓発	○	○	○	○	○
3	安定運営のための料金等の見直し検討	○	○	○	○	○

3 し尿処理の適正化

- ✓ くみ取りから水洗トイレへの改修を促進します。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	水洗化への改修促進	○	○	○	○	○
2	足柄上衛生組合への運営負担	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
公共下水道水洗化率	89.6%	90%

第4項 移住・定住

基本方針

若者・子育て世代をターゲットとして、山北町の特性を生かした魅力ある定住環境を充実させるため定住施策を総合的に推進するとともに、移住・定住につながる関係人口の創出を図ります。

現状と課題 必要性

- ❖若者・子育て世代が住みやすい環境を創出するため、住環境や子育て環境の整備、働く環境の創出とともに、交通利便性や生活利便性の向上等を図ります。
- ❖まちの魅力の町内外への情報発信を強化する必要があります。
- ❖移住・定住につながる関係人口を創出するための施策を展開する必要があります。
- ❖民間企業、各種団体等と連携した施策の展開を進めていく必要があります。
- ❖来訪者や移住者等の声を絶えず収集し、強みの強化、施策の質の向上を図ります。

施策と事業

1 定住対策の総合的な推進

- ✓ 山北町第3次定住総合対策事業大綱の効果検証を行い、改訂を行います。
- ✓ 町の各種定住施策を横断的に進行管理し、総合的かつ効果的な定住対策を進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	山北町定住総合対策事業大綱の改訂	○				
2	山北町定住総合対策事業大綱の進行管理	○	○	○	○	○

2 やまきた定住相談センター事業の推進

- ✓ 各種定住相談のワンストップサービスを進めるとともに、町内外に定住施策の情報発信を行います。
- ✓ 町民や関係団体、企業等との連携による定住施策を推進します。
- ✓ 住まいづくり応援制度の拡充などにより、定住支援を進めます。
- ✓ 地域や関係団体等と連携し、関係人口から定住人口につなげる取り組みを図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	やまきた定住相談センターの運営	○	○	○	○	○
2	定住施策に係る情報発信事業の実施	○	○	○	○	○
3	住まいづくり応援事業による支援	○	○	○	○	○
4	定住対策に係る企業との意見交換会の開催	○	○	○	○	○

3 空き家バンク事業の推進

- ✓ やまきた定住協力隊と連携し、空き家空き地の掘り起こしや定住促進イベント等の実施により、移住希望者の定住を促進します。
- ✓ 民間団体と連携を図り、空き家バンク事業の拡充を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	空き家バンクの運営	○	○	○	○	○
2	空き家見学ツアーの開催	○	○	○	○	○
3	やまきた定住協力隊活動の実施	○	○	○	○	○

指 標

	実績値(2022年度)	目標値(2028年度)
空き家バンク利用による成立件数	222件	300件
新築祝い金等の交付件数	174件	240件

第4節 コミュニティ

第1項 コミュニティ活動

基本方針

自治会などのコミュニティ（地域社会）活動を通じて、協働のまちづくりへの町民参画を促進します。また、町民自らが主体的に地域課題の解決に取り組む、多様なコミュニティ活動が活発なまちづくりを進めます。

現状と課題 必要性

- ❖ 山北町では自治会が中心となって地域の行事、まちの美化活動、防災・防犯活動などが進められていますが、少子高齢化の進展に伴い、地域での助け合いがなければ解決できない問題がますます増えています。こうした中、今後も自治会による積極的な取り組みが必要となっています。
- ❖ 自治会に関しては、個人の価値観やニーズの多様化、人口の減少、構成員の高齢化などから加入世帯が年々減少傾向にあり、特に加入世帯数の少ない自治会にあっては、今後活動が困難になっていくことが懸念されています。また、定年年齢の引き上げも担い手不足・担い手の高齢化をもたらし、自治会の組織や活動に大きな影響を与えています。
- ❖ 町民と行政との信頼を高め、まちづくりの協働体制を築いていくために、町民提案による協働事業などについて検討していく必要があります。

施策と事業

1 コミュニティ活動の推進

- ✓ 自治会の活動及び運営に対する助成や適正規模の組織とするための組織の再編成を支援します。
- ✓ 自治会や連合自治会と連携して、自治会の加入率向上のため様々な取り組みを行います。
- ✓ まちづくり活動を行う地域づくり組織やNPOなどの活動を支援します。
- ✓ 自治会活動やコミュニティ活動への参加を呼びかけます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	自治会活動の支援	○	○	○	○	○
2	地域づくり組織やNPO団体等への支援	○	○	○	○	○

2 町民やコミュニティと連携したまちづくりの推進

- ✓ 町民や企業・事業所などと行政との協働のまちづくりを推進します。
- ✓ 各種委員会や審議会等における積極的な町民参加を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	自治基本条例に基づくまちづくりの推進 (町・町民)	○	○	○	○	○

指 標

	実績値(2023年度)	目標値(2028年度)
自治会への加入率	80%	82%

第2節 交通基盤

第1項 公共交通機関

基本方針

町、地域、交通事業者等が連携を図り、将来にわたり町民や来訪者など誰もが使いやすい公共交通サービスを提供します。また、鉄道事業者など関係機関と調整しながら、駅周辺の整備を推進します。

現状と課題 必要性

- ❖ 鉄道事業者へ御殿場線増便の要望を継続的に行っていますが、利用者が減少していることもあり、実現に至っていません。また、交通系ICカードが導入されましたが、各鉄道事業者のエリアを跨った利用ができないなどの課題があります。
- ❖ 路線バスは、利用者の減少や深刻な運転手不足などにより、企業経営が厳しい状況にあり、新松田駅から西丹沢ビジターセンターの間を運行している西丹沢線は、国の補助事業を活用して路線維持している状況です。
- ❖ 町が退出バス路線を補完するために運行している山北町内循環バスは、利用者が減少していることや、車両の老朽化などの課題があります。
- ❖ 令和5年度に策定した「山北町地域公共交通計画」に示された施策・事業は、町民、交通事業者、国・県などで構成される「山北町地域公共交通会議」で検討しながら推進する必要があります。
- ❖ 山北町内循環バス、小中学校スクールバスなどの公共交通にかかる公的負担が年々増加しています。
- ❖ **MaaSや自動運転などの先端技術の活用による移動手段や、ドローンや自動配送ロボットをはじめとした新たな輸送手段の出現など、デジタル技術を活用した、新たなモビリティサービスが普及しつつあります。**

4 健全な財政運営の推進

- ✓町の財政状況をわかりやすく公表します。
- ✓適切な町債借入により世代間の負担の均衡を図ります。
- ✓町有財産の有効活用に努めます。
- ✓ふるさと応援寄附金制度を研究・活用します。
- ✓地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）やクラウドファンディングなど、新たな財源確保に向けた取り組みを進めます。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	企業会計的手法による公会計制度の活用	○	○	○	○	○
2	ふるさと応援寄附金制度の活用	○	○	○	○	○
3	地方創生応援税制（企業版ふるさと納税） やクラウドファンディングの活用推進	○	○	○	○	○

5 公共施設の適正化

- ✓公共施設の複合化や統廃合を含めた施設の機能や配置の適正化を図るとともに、町有施設の計画的な維持保全体制を確立し、公共施設のライフサイクルコストの低減を図ります。

事業名		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
1	個別施設の長寿命化計画の策定	○	○	○	○	○
2	緊急的な修繕・更新への対応	○	○	○	○	○
3	公共施設の機能・配置の適正化	○	○	○	○	○

指 標

	実績値（2022年度）	目標値（2028年度）
将来負担比率	9.8%	20%
研修参加人数（全職員参加研修を除く。）	94人	100人
職員提案件数	0件	5件